

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」 第5回 三陸沿岸道路エリア活性化検討会

日時：令和7年1月28日(火)10:30～

場所：仙都会館 7階D会議室

仙台市青葉区中央 2-2-10

次 第

1. 開会

2. 議事

- 1) 前回の振り返り
- 2) 三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信
 - ・三陸沿岸地域紹介映像作成及び上映
 - ・地域活性化フォーラム
- 3) 3年間の成果（実施報告書(案)）
- 4) その他

3. 閉会

資料－1：規約と名簿

資料－2：前回議事録

資料－3：三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信

資料－4：国土計画協会 実施報告書(案)

参考資料－1：三陸沿岸地域紹介動画絵コンテ

参考資料－2：フォーラム広報チラシ

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」

三陸沿岸道路エリア活性化検討会 規約

令和 4 年 7 月 13 日

(名称)

第 1 条 この検討会は、三陸沿岸道路エリア活性化検討会(以下「検討会」という。)という。

(目的)

第 2 条 検討会は、三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来指向の地域活性化を図るため、観光コンテンツと周遊プログラムを踏まえたツアールートとともに、三陸沿岸道路の利用促進の検討を行うことを目的とする。

(委員)

第 3 条 検討会の委員は、別紙のとおりとする。

(座長)

第 4 条 検討会に座長を置く。

2 座長は、委員の確認によってこれを定める。

3 座長は、検討会の議長となり、議事の進行に当たる。

4 座長に事故があるときは、委員のうちから座長が指名する者が、その職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 座長が必要と認めるときは、委員以外の者に対し、検討会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

(会議)

第 6 条 検討会は、原則公開とする。

2 検討会の資料及び議事については、公開とする。ただし、座長が必要と認めるときは、その一部を非公開とすることができる。

(雑則)

第 7 条 この規定に定めるもののほか、検討会の運営に関して必要な事項は、座長が別途定める。

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」
三陸沿岸道路エリア活性化検討会 名簿

	氏名	役職	所属
1	阿部 憲子	女将	南三陸ホテル観洋
2	阿部 寿一	専務理事	(一財) VISIT はちのへ
3	石井 扶佐子	業務執行理事 駅長	(一社) 思惟の風 道の駅たのはた
4	今里 直樹	編集局次長兼コンテンツセンター長	河北新報社
5	太田代 剛	一関支社長	岩手日報社
6	奥村 誠	教授	東北大学災害科学国際研究所
7	紺野 純一	理事長	(一社) 東北観光推進機構
8	柴田 亮	営業本部 地域連携事業室室長	岩手県北自動車株式会社
9	垂井 祐司	課長	青森県県土整備部 都市計画課
10	中村 浩彰	支部長	(一社) 日本旅行業協会 東北支部
11	早坂 寛	副館長	東日本大震災津波伝承館
12	樋口 保	課長	宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課
13	森田 竜平	総括課長	岩手県復興防災部 復興推進課
14	山本 賢	道路計画第二課長	東北地方整備局道路部
15	脇田 淳	営業部長	宮城交通株式会社

着色した委員は異動に伴う変更

* 五十音順・敬称略

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」 第4回 三陸沿岸道路エリア活性化検討会

日時：令和6年2月20日（火）13時30分～
会場：マリオス 18F 188 会議室

意見交換内容

1)前回の振り返り 2)モニターツアーの結果

(1)旅行者

●河北新報社 今里委員

- ・「満足度」の項目でアンケート回答者の半数が未回答であるが、事務局ではどういう解釈をしているか教えて頂きたい。

●事務局

- ・満足度の評価ができない、提示された5区分では評価できないという意図だと考えている。
- ・モニターツアー時に不満があるとの声がなかったので、不満はあったが遠慮して未回答にしていたわけではないと考えている。

●河北新報社 今里委員

- ・未回答者は全ての項目で未回答か。

●事務局

- ・その他の項目については、回答している。

●南三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・「満足度」の項目でアンケートの半数が未回答であることが私も気になった。私も意見が言いにくいから未回答にしているのではないかと思った。
- ・言いにくいところを確認しながら今後の参考にすると良いと思う。

●奥村座長

- ・モニターツアーを実施した3ルートでは、天候に問題はなかったか教えて頂きたい。

●事務局

- ・モニターツアーを実施した日において、天気が悪い日はなかった。特にCルートのツアーの日は晴天であった。

●岩手日報 太田代委員

- ・岩手県のルートにある「うのすまい・トモス」「たろう学ぶ防災ガイド」は熱心に活動されているガイドさんがいる。心に響き、印象に残る場所だと思う。
- ・学びたいと意欲がある外国の方には良い面だけではなく、上手いかなかった面も正直に話すことで評価へとつながる。そこに力を入れれば回るだけではなく、学びたい人にも良いツアーになるのではと思う。

●岩手県北自動車(株) 平澤委員

- ・旅行エージェントがモニターツアーに参加して、学んだことを会社に持ち帰って活かした事例があれば教えて頂きたい。

●事務局

- ・持ち帰って会社で活かした事例は把握していないが、アンケートでは「誘客できるか検討していきたい」「旅行行程などに活かして行きたい」などの声はあった。

●東日本大震災津波伝承館 澤田委員

- ・B ルートで受け入れさせて頂いたが、印象に残るかは見学時間によって差が出るのではないかと考えている。当館は 30 分程度しか見学時間がなかったため、今後は見学時間に応じて、見学してもらいたい箇所を選ぶようにしていきたいと考えている。

●奥村座長

- ・個人の興味に合わせた見学パターンを作っているか教えて頂きたい。

●東日本大震災津波伝承館 澤田委員

- ・見学時間に応じた見学コースを設定している。
- ・事前申し込みでリクエストがあった場合は、それに応じた見学コースを提供している。

●河北新報社 今里委員

- ・A ルートについて、印象に残った場所として観光地の目玉である「シーパルピア女川」や「いしのまき元気市場」が挙がっていないのが気になった。見学時間が長く、集中力を持続できなかったことが要因ではないかと思う。
- ・ツアーはどのような人をターゲットにしているのか教えて頂きたい。

●奥村座長

- ・このツアーは一般客をターゲットにしている。
- ・エージェントの方たちはどんな客層にどのような観光地のニーズがあるかある程度把握していると思うので、そのような素材をピックアップ出来ればよいのではないかと考えている。

(2)台湾教育関係者

●(一社)日本旅行協会東北支部 中村委員

- ・観光地それぞれに魅力があると考えている。そのため、ツアールートの満足度が高かったか把握する必要があると思う。
- ・旅の重要なエッセンスとなる食事、休憩、お土産等にも着目していきたい。
- ・また、教育旅行など団体で行動する場合は、バスの移動時間で予習・復習出来ればよいのではないかと思う。

●岩手日報 太田代委員

- ・台湾にはどのようなニーズがあるのか教えて頂きたい。台湾の学校関係者が思う教育旅行のニーズにマッチしているツアーを提供していく必要があるのではないかと思う。

●事務局

- ・令和4年度に台湾の学校にヒアリングをした際、伝承施設を見たことない方がほとんどで、伝承施設を見てみたいとの声が多かった。
- ・また、台湾も日本同様島国であり、地震・台風等の災害が多発しており、伝承施設に対して興味があったので、台湾の方に日本の伝承施設を知ってもらいたいとの思いもあった。

●奥村座長

- ・裏側にも興味があるのではないかと考えている。
- ・学生が相手となると、「伝承・教育」ではなく、新しい「気づき・視点」が必要ではないか。
- ・学んで帰国してもらっただけではなく、気づきや違う視点を感じて帰国してもらう方が大事だと思う。

3)Web アンケートの結果

●岩手県復興防災部 米澤委員

- ・施設の関心と三沿道の認知に相関関係があったか教えて頂きたい。また、整理するに辺り、どのような結果を想定していたか教えて頂きたい。

●事務局

- ・伝承施設を認知している方は三沿道の認知度も高いのではないかと想定して整理したが、そのような傾向は見られなかった。
- ・現段階では関係性がよく分からない、ということが分かった。

●東北地方整備局道路部 松原委員

- ・WEB アンケート結果を今後どのように活用していく方針であるか教えて頂きたい。

●事務局

- ・今後活性化フォーラムを開催する予定であり、その際に活用していきたいと考えている。

●岩手日報 太田代委員

- ・「石巻市震災遺構大川小学校」の認知度が高いが、ツアーに活用していく予定はないか教えて頂きたい。

●事務局

- ・弊社では研修会を行っており、その際に要請があれば活用していく方針である。
- ・大川小学校をツアーに組み込むには「大川伝承の会」の語り部さんがいないと成り立たないため、協力関係が必要。

●奥村座長

- ・伝承施設に行く際にルートを検索するはずなので、伝承施設に行った方の三沿道の認知度が高いのは想像できる。
- ・ニーズはあるが認知されていない理由等を把握していく方が今後に活かせると思う。
- ・次回アンケート調査を実施するのならば、ICの近さなどが分かればよいのではないか。

●南三陸ホテル観洋 阿部委員

- ・認知度が 20％程度とのことが、リピーターは「人」に会うためにやってきている。
- ・沿岸施設にレポートしてもらうには、施設ではなく人との関わりが重要であると思っている。

●岩手県北自動車(株) 平澤委員

- ・リスティング広告にて、仙台-宮古線の広報をしているが、検索ワードとして「仙台 高速バス」が多く使われていた。そのため、一般客は三陸に旅行する際に仙台をゲートウェイとして考えていると思うので、仙台圏での情報発信が重要であると考えている。そのデータも提供でできる。

●(一社)東北観光推進機構 紺野委員

- ・アンケート調査結果の使い方が大事で、検討会のみでは交流人口を拡大するには限界がある。アンケート結果を活かし、他の組織と連携していく必要があると考える。
- ・また、伝承施設の入場者数や三沿道の交通状況などデータ化して調査し、今後の戦略を立てる必要があると思う。

1. 三陸沿岸地域紹介映像制作

1) 目的

東日本大震災から13年が経ち、三陸沿岸道路が全通し、新たな復興のステップを迎えている。新設した震災伝承施設、復興インフラ、そして復興の街並みは、被災者の様々な思いが込められた施設であり、貴重な地域の資源であり、財産でもある。

一方、三陸沿岸道路による震災伝承施設のネットワーク化は、「3.11伝承ロード」として伝承や防災だけにとどまらず、人と人、地域と地域を繋ぎ、地域の結束力を高める大きなコンテンツである。

そのため、震災後の三陸沿岸地域の魅力や活力を映像化し、広く発信することにより、三陸地域への誘客を図り、復興道路の利用促進や震災伝承施設への集客に貢献するものである。

2. コンセプト

三陸沿岸道路を活用し、「3.11伝承ロード」にある震災伝承施設を含め、その場所の人を介して新たな三陸沿岸地域の魅力や活力、見どころを紹介するものをアピールする。

3) ポイント

人を介して三陸の魅力や活力、見どころを紹介



三陸沿岸道路を使い、震災伝承施設の魅力を伝えながら、そのエリアの周辺観光(グルメも含め)紹介していく、観光のきっかけづくり



人を介して伝える
・震災伝承施設等の語り部やガイドとのコミュニケーション
・タレントによる旅人の気持ちを表現



地元愛で結ぶ復興ツーリズム
タイトル：「震災伝承施設を巡る 三陸縦断旅」

2. 映像のあらすじ

旅好き女子が三陸沿岸道を利用して旅をする 旅先で出会う人や施設、体験などを通じて、旅を楽しみながらも震災の伝承について考える。旅を終えた時にCASTは何を思うのか。現在の三陸の観光とCASTの率直な感想で映像が展開される

3. 絵コンテ-1



絶景の中の三陸沿岸道を走る
車から旅が始まる (ドローン)

運転している様子

景色が開かれる
車窓の映像挟みながら

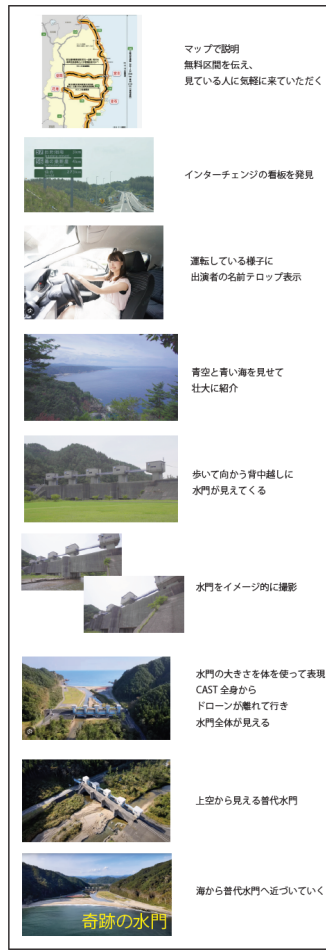
開通時に撮影した
道路を飛行したドローンで
旅の説明

運転している様子

映像内で印象的な部分を抜粋

ハンドルを握りながら
旅の重み込みを話す

ドローンで壮大な景色の中
旅が始まるタイトル



マップで説明
無料区間を伝え、
見ている人に気配に添っていたく

インターチェンジの看板を発見

運転している様子に
出演者の名前テロップ表示

青空と青い海を見せて
壮大に紹介

歩いて向かう背中越しに
水門が見えてくる

水門をイメージ的に撮影

水門の大きさを体を使って表現
CAST 全身から
ドローンが離れて行き
水門全体が見える

上空から見える替代水門

海から替代水門へ近づいていく
奇跡の水門



水門にある階段を登る

水門の上で語り部と出会う

声をかける語り部

語り部 15

写真で活動を紹介

水門下を歩きながら
実際に説明してもらい
説明している様子と
実際に聞いている CAST 表情
水門の映像で展開



マップで説明

車窓から見える釜石の街並み

釜石の全貌が見えるドローンが
俯瞰からの映像

スタジアム周辺を歩く

看板を見る CAST に
復興看板が見える

復興看板が見える

各地の復興看板の写真

歩きながらスタジアムを見
釜石職住居復興スタジアムを
見て回る

3. 絵コンテ-2



釜石臨海競技場スタジアムの映像を数カット

ベンチでスタジアムを見ている所に川崎さんが声をかける

二人が出会った瞬間の表情

川崎さんの紹介の中で、いのちをつなぐ未来館を見せる

スタジアムで二人で話す。スタジアムが、どういった場所なのか聞く。説明の中でスタジアムを俯瞰的に見えるドローン

二人で歩いてスタジアムから出る様子



マップで当時逃げた経路・距離を見せる

避難当時の写真2枚程度

画面下に現在地表示

歩いてきて、やまぎサービス付近で説明を聞く

現在の見晴らしと当時の写真をフェード

恋の峠手前を歩きながら

恋の峠が見えてきて



展開が代わり

車に乗って出発、高速の看板の映像から車を降りて道の駅に入る

店内に並ぶ商品を眺めて食事をするまでをBGMにのせて流れるように見せる



マップで説明

一本松と景色を拡大に

一本松の映像見上げる CAST の表情

気仙中学校外観

気仙中学校ドローン

雄威と津波の高さの看板

3. 絵コンテ-3



ガイドに連れられて
中に入っていく



(建物の被害の話)
実際にガイドを受け話を聞く
話を聞きながら
印象的だったものを
抜粋して映像で使用



(当時の避難の状況の話)
実際にガイドを受け話を聞く
話を聞きながら
印象的だったものを
抜粋して映像で使用



気仙沼大橋を走る様子を
ドローンで撮影

マップで説明



ブルーインパルス



自転車で行く CAST



ドローンで自転車追っかけ



奥松島イートプラザ



自転車に乗る表情
遊歩道
線路の名残りなど



看板の前で立ち止まる



看板を見せる



この地点の雰囲気



看板の写真や
当時の写真があれば



自転車で走る CAST



旧野蒜駅の様子



震災復興伝承館を
CASTが見学している
映像で構成



奇跡の丘



これまでの映像を
織り交ぜながら展開します



各地の震災伝承施設の
写真を表示

4. 制作映像の活用方策

・映像の提供先

- 三陸沿線自治体
- 三陸沿線の観光協会等
- 三陸沿線の「道の駅」
- 三陸沿岸道路周辺の震災伝承施設
- NPO法人みちのくトレイルクラブ
- いわて三陸ジオパーク推進協議会
- 三陸復興国立公園内ビジターセンター
- 国や県の出先事務所 他

・活用方法

- SNS（YouTube等）による発信
- 当機構ウェブサイトの掲載、
- 3.11伝承ロード研修会での活用
- イベント時における放映 他

・その他

- 申込者への自由提供（ウェブサイトによる希望者）

5. フォーラムの狙い

本事業（New Destinationプラン）の3年目として、これまでの議論の周知と啓発の観点から情報発信を行うことにしている。

東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸の被災地では、復旧・復興し、三陸沿岸道路の整備により、沿線エリアは劇的な変化を遂げている。経済、社会、産業が大きく変化する中でどのように地域が変化したのか。域内はもとより域外への人にも理解できるように、三陸沿岸地域の魅力を知る人に集まっていただき、地域活性化に向けた議論となるフォーラムを開催する。

6. 地域活性化フォーラムについて

これまでの議論のベースステーションとした「三陸沿岸道路エリア活性化検討会」のメンバーやモニターツアー参加者などの協力を得ながら、地域活性化フォーラムを開催する。

三陸沿岸道路には多くの自治体があることから、多くの方に聞いていただけるように、岩手県と宮城県にある沿線の2都市で開催することになっている。以下に開催の骨子を示す。

- 1) **タイトル** 「三陸の新しい魅力」～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～
- 2) **開催地** 宮城県気仙沼市と岩手県釜石市 2箇所 会場は100人規模で開催
- 3) **対象** 一般市民、震災伝承関係者、観光関係者等
- 4) **フォーラムの構成** 基調講演＋パネルディスカッション
- 5) **参加費** 無料

7. フォーラム開催概要

- (1) 目 的 復興後に整備された三陸沿岸道路と震災伝承施設の魅力について発信する。
- (2) タイトル 「三陸の新しい魅力」～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～
- (3) 開催日と開催場所

- ①9月11日 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館「体験交流ホール」 募集定員100名
- ②10月2日 釜石市民ホール「TETTO」 ホールB 募集定員100名

(4) フォーラムの構成

- ①基調講演 東北大学災害科学国際研究所 教授 奥村誠氏（三陸沿岸道路エリア活性化検討会の座長）
演題「未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割」

②パネルディスカッション

- ・コーディネーター 石巻専修大学 教授 庄子 真岐 氏
- ・アドバイザー 3.11伝承ロード推進機構 原田 吉信

●気仙沼市開催

- ・パネリスト 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 福岡 麻子 氏
- 南三陸ホテル観洋 女将 阿部 憲子 氏（三陸沿岸道路エリア活性化検討会委員）
- 近畿日本ツーリスト(株)仙台支店 豊島 恵美子氏（モニターツアー参加者）
- (株) 日本旅行東北 橘 えりか 氏

●釜石市開催

- ・パネリスト いのちをつなぐ未来館 川崎 杏樹 氏
- 宝来館 語り部女将 岩崎 昭子 氏
- 日本航空（株）東北支社 根尾 奈那 氏（モニターツアー参加者）
- (株) 日本旅行東北 後藤 博美 氏（モニターツアー参加者）

8. フォーラムのプログラムと広報

1) プログラム

- (1) 開場 13:00
- (2) 開演 13:30
- (3) 挨拶 地元首長
(気仙沼市長※ ※代理副市長)
(釜石市長)
- (4) 基調講演 45分
(奥村氏講演：2カ所共通)
- (5) パネルディスカッション 60分
(女性による三陸の魅力の発信)
- (6) 閉会 15:30

2) 広報 リーフレット

3.11 DEASHO ROAD

三陸の新しい魅力

震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について

地域活性化フォーラム in 気仙沼

2024年 9月11日 水

参加無料 定員100名 13:30～15:30 (開場13:00)

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 体験交流ホール(宮城県気仙沼市沢路上町9-1)

当機構では、三陸沿岸道路や震災伝承施設を活用し、新たな交流人口を呼び込む取り組みを進めています。このフォーラムでは、これまで実施したモニターツアーや検討会での意見をもとに、三陸沿岸地域の魅力を皆さんと一緒に考えます。ぜひご参加ください。

基調講演

未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割

講師 奥村 誠氏 東北大学災害科学国際研究所 教授

京都市出身。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同大学助手、講師、広島大学助教授を経て、2006年より東北大学教授。地域計画・土木計画を専門とし、ブラジル、シベリア、ボリビアでのプロジェクトにも関わる。博士(工学)。

女性が語る三陸の新しい魅力

～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～

パネルディスカッション

コーディネーター 石巻専修大学 教授 庄子 真岐氏

パネリスト 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 福岡 麻子氏

パネリスト 南三陸市立南三陸 女学 阿部 憲子氏

パネリスト 気仙沼市立三陸 豊島 恵美子氏

パネリスト (一財)三陸復興財団 後援機関 橋 えりか氏

パネリスト (一財)三陸復興財団 後援機関 原田 吉信氏

申し込み・お問合せ (一財) 3.11伝承ロード推進機構 お申し込みページはこちら

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-25 コンサスビル3F
TEL: 022-393-4261 月～金 9:00～17:30 (祝日を除く)
https://www.311deasho.or.jp/ 3.11伝承ロード推進機構

主催：一般財団法人3.11伝承ロード推進機構
後援：気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島市、震災伝承ネットワーク協議会、国土交通省東北地方整備局、宮城県、岩手県
(一財)三陸復興財団が主催する「高速道路利用・観光・地域連携推進プラン」の支援金を活用しています

【気仙沼市開催】

3.11 DEASHO ROAD

三陸の新しい魅力

震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について

地域活性化フォーラム in 釜石

2024年 10月2日 水

参加無料 定員100名 13:30～15:30 (開場13:00)

釜石市民ホール TETTO ホールB (岩手県釜石市大町1-1-3)

当機構では、三陸沿岸道路や震災伝承施設を活用し、新たな交流人口を呼び込む取り組みを進めています。このフォーラムでは、これまで実施したモニターツアーや検討会での意見をもとに、三陸沿岸地域の魅力を皆さんと一緒に考えます。ぜひご参加ください。

基調講演

未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割

講師 奥村 誠氏 東北大学災害科学国際研究所 教授

京都市出身。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同大学助手、講師、広島大学助教授を経て、2006年より東北大学教授。地域計画・土木計画を専門とし、ブラジル、シベリア、ボリビアでのプロジェクトにも関わる。博士(工学)。

女性が語る三陸の新しい魅力

～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～

パネルディスカッション

コーディネーター 石巻専修大学 教授 庄子 真岐氏

パネリスト 釜石市立大町 いのちをつなぐ未来館 川崎 杏樹氏

パネリスト 釜石市立大町 宝来館 岩崎 昭子氏

パネリスト 日本経済新聞(株)東北支社 根尾 奈那氏

パネリスト (一財)三陸復興財団 後援機関 後藤 博美氏

パネリスト (一財)三陸復興財団 後援機関 原田 吉信氏

申し込み・お問合せ (一財) 3.11伝承ロード推進機構 お申し込みページはこちら

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-25 コンサスビル3F
TEL: 022-393-4261 月～金 9:00～17:30 (祝日を除く)
https://www.311deasho.or.jp/ 3.11伝承ロード推進機構

主催：一般財団法人3.11伝承ロード推進機構
後援：釜石市、大町町、大船渡市、陸前高田市、震災伝承ネットワーク協議会、国土交通省東北地方整備局、岩手県、宮城県
(一財)三陸復興財団が主催する「高速道路利用・観光・地域連携推進プラン」の支援金を活用しています

【釜石市開催】

9. フォーラムの開催結果

1) 参加者数

- ・ 気仙沼会場 一般 60名
 メディア 河北新報、建設新聞、建設通信、建設工業 4社
- ・ 釜石会場 一般 75名
 メディア 釜石新聞、岩手日報、朝日新聞、読売新聞 4社

2) 基調講演（奥村氏講演骨子）

- ・ 災害伝承が災害対策に役立つためには、人々が自分ごととして捉える必要があると強調。
- ・ 三陸沿岸道路の整備により、移動時間が短縮されたものの、それだけでは観光客の増加には繋がらないと指摘。
- ・ 地域の魅力を高め、来訪者との交流を深めることの重要性を強調し、道路の時間信頼性が重要な役割を果たす。



【奥村氏 講演状況】

3) パネルディスカッション（議論の概要）



【気仙沼会場パネルディスカッション状況】

（１）気仙沼会場

未来志向の地域観光としての震災伝承施設の役割を考慮すると、2次交通の整備や観光タクシーの造成といったアクセスの向上は必須で、地域の魅力再発見の必要性をベースに、震災学習と地域の魅力を組み合わせた商品開発の可能性を信じる。また、伝承館のリーダーの多さと質の高さから人との繋がり的重要性や新たな人のネットワーク構築による震災伝承施設の利活用が必要となる。



【釜石会場パネルディスカッション状況】

（２）釜石会場

議論を通じて、三陸地域の観光振興には防災学習と観光の融合としての震災伝承施設の活用と、三陸沿岸道路による地域間連携の強化を図り、インバウンド対応の充実を共通の認識を持って観光の推進を図る。また、単なる施設整備だけでなく、地域全体で魅力を創出し、持続可能な観光地域づくりを進めていく必要性を共有。

三陸沿岸道路の全線開通を契機として新たな交流人口を創出する

「3.11伝承ロードNew Destinationプラン」

～地域観光資源と震災伝承施設を融合させた新たな周遊モデル開発事業～

2022年度～2024年度
実施報告書

一般財団法人3.11伝承ロード推進機構



目次

0. 本企画の目的と特徴	p1	3. 三陸沿岸道路及び周辺エリアの	
0. 事業経緯	p2	魅力を伝える情報発信	p31
1. 新たな周遊ルートの可能性調査	p3	3-1. 狙い	p31
1-1. 三陸沿岸道路の特性と整備状況	p3	3-2. 地域活性化フォーラム	p31
1-1-1. 三陸沿岸道路整備の推移	p4	3-2-1. フォーラム開催概要	p32
1-1-2. 交通量の推移(2時点比較)	p5	3-2-2. フォーラムのプログラムと広報	p33
1-1-3. 時間短縮(時間地図)	p6	3-2-3. フォーラムの開催結果	p34
1-1-4. 高速バスの導入	p7	3-3. 三陸沿岸地域紹介映像制作	p36
1-1-5. 観光客入込台数(八戸市～東松島市)	p8	3-3-1. 目的	p36
1-1-6. 休憩施設等の状況	p9	3-3-2. コンセプト	p36
1-1-7. 震災伝承施設の設置状況	p10	3-3-3. ポイント	p36
1-1-8. 参考資料(観光テーマとコンテンツ)	p11	3-3-4. あらすじ	p37
1-2. 沿線自治体ヒアリング結果	p14	3-3-5. 絵コンテ	p37
1-2-1. 観光関係	p14	3-3-6. 制作映像の活用方策	p40
1-2-2. 三陸沿岸道路関係	p15	4. 総括	p41
1-3. 震災伝承施設のWebアンケート調査	p16	4-1. 活動の振り返り	p41
2. モニターツアーの実施	p19	4-2. 活動の総括	p41
2-1. 旅行業者によるモニターツアー	p19		
2-1-1. ツアールート	p19		
2-1-2. モニターアンケート結果	p23		
2-2. 海外教育関係者によるモニターツアー	p27		
2-2-1. 台湾教育関係者について	p27		
2-2-2. モニターアンケート結果	p28		

目 的

東日本大震災からの10年を契機に新たな復興ステージのアクションとして
全359kmに及ぶ三陸沿岸道路を活用して各地の観光コンテンツと震災伝承施設を融合させ、

「三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来志向の地域活性化を図る」

企画の特徴

旅行事業者と地元の観光関連事業者等が一体となり、
観光地訪問や被災関連施設視察など個々の目的を融合した
ハイブリッド型東北エリアツーリズムを目指した事業実施の可能性を検討

三陸沿岸道路の利活用の拡大を図る観点から、**沿線に分布している震災伝承施設の多角的な利活用、震災伝承を狙いとする震災伝承施設の観光的価値の醸成**を図りつつ、
震災伝承施設の観光コンテンツ化を図る。

震災伝承施設の利用者の増大による災害の記憶と教訓の伝承が促進
災害大国日本として**防災力の向上に寄与**すること、**三陸沿岸道路の利活用の増大**と
ともに被災地における**地域活性化に貢献する**ことになる。

観光、防災、学識者、マスコミ等関係者による**三陸沿岸道路エリア活性化検討会**を立ち上げ、それをベースステーションとして、三陸沿岸の新たな観光ルートの開発に向け、**より価値の高いコンテンツと周遊プログラムのあり方を模索し、持続可能な事業環境を検討**しながら、以下の3つの事業を実施した。

①新たな周遊ルート開発可能性調査

実施年度

- ・三陸沿岸道路の特性と整備状況
- ・沿岸自治体の考え方（自治体ヒアリングの実施）
- ・WEBアンケート調査（震災伝承施設のポテンシャル）

R4

R4

R5

②モデルルートでのモニターツアーの実施

- ・モデルルートの検討
- ・ルートのテーマと設定
- ・観光事業者による評価（モニターツアー）
- ・海外教育関係者による評価（台湾教育関係者招請）

R5

R5

R5

R5

③三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信

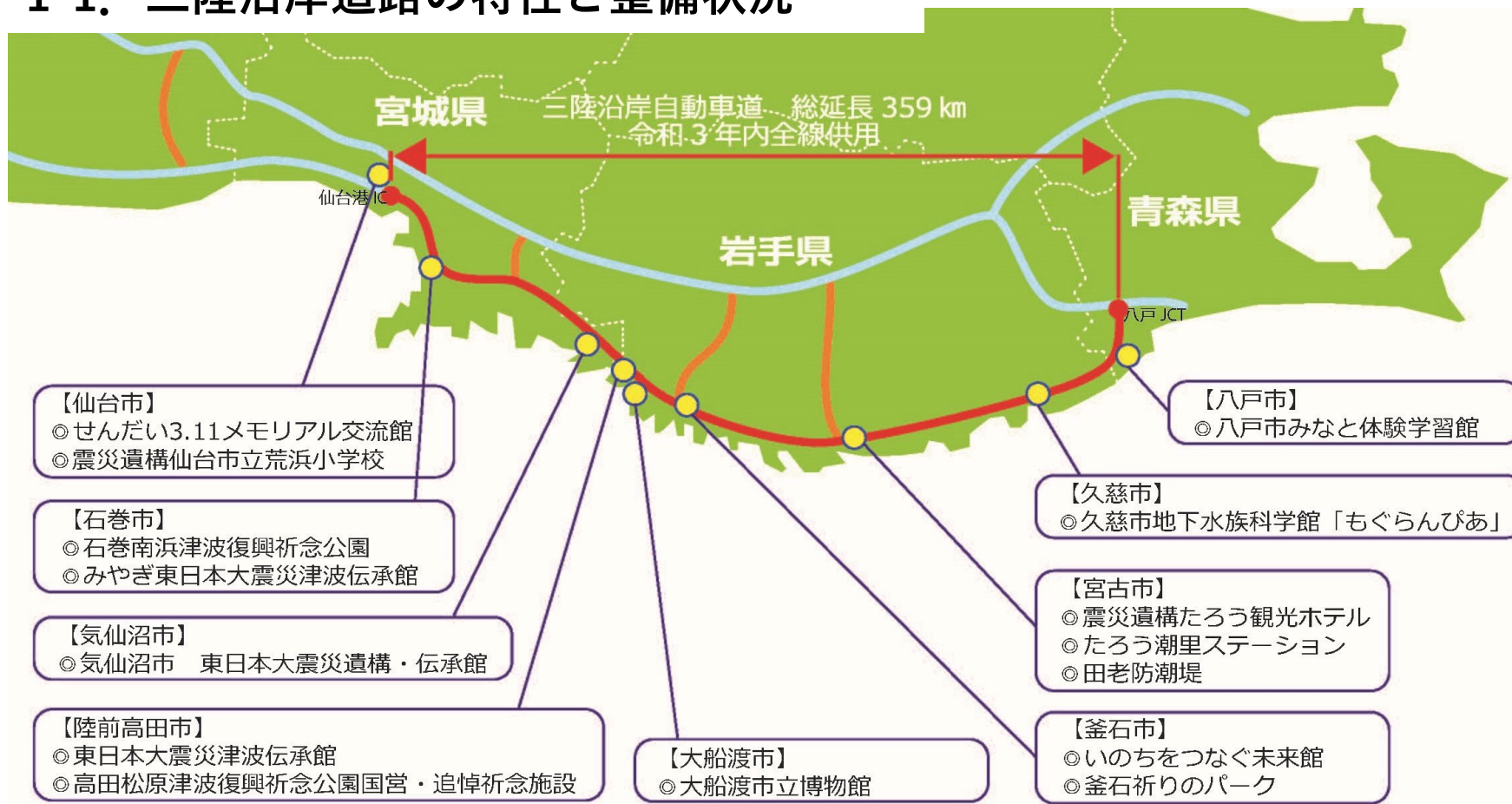
- ・地域活性化フォーラムの開催
- ・三陸映像プロモーション

R6

R6

1. 新たな周遊ルートの可能性調査

1-1. 三陸沿岸道路の特性と整備状況



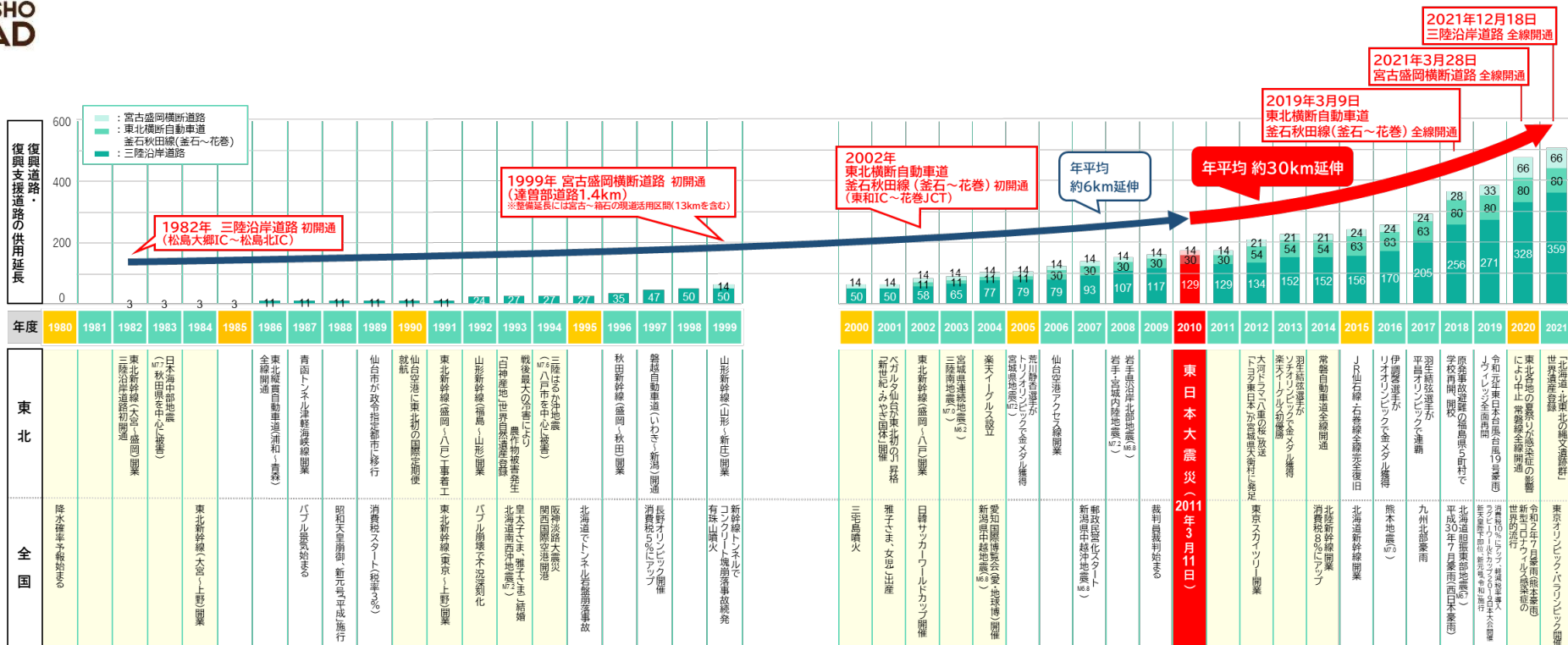
※三陸沿岸自動車道にある主な震災伝承施設

【震災伝承施設】 令和6年4月現在で、344施設が登録されている。

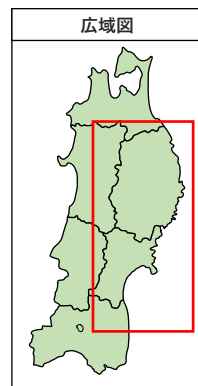
【主な来館者の状況】

- ・ 陸前高田市にある東日本大震災津波伝承館の来館者数は、令和6年10月で110万人を超えた。
- ・ 気仙沼市の東日本大震災震災遺構・伝承館の来館者数は、令和4年9月に25万人を超えた。
- ・ みやぎ東日本大震災津波伝承館は、開館から1年11ヶ月の令和5年5月に10万人を超えた。

1-1-1. 三陸沿岸道路整備の推移

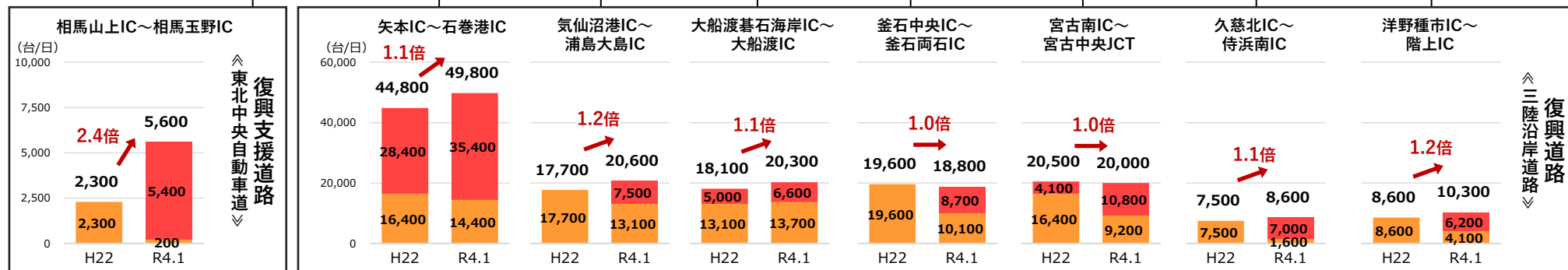


2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
【災害】 ■東日本大震災 (M9.0) (2011.3.11) (※1) 【交通】 ■東北新幹線の 新青森-東京間で 新型車両E5系「はやぶさ」が 営業運転開始	【交通】 ■三陸沿岸道路の 全ルート決定 【観光・世界遺産等】 ■「平泉」が 世界文化遺産 登録	【災害】 ■三陸沖地震 (M7.3) 【交通】 ■JR気仙沼線、 BRTによる 暫定運行開始 ■JR大船渡線 BRTで仮復旧 【観光・世界遺産・その他】 ■いわてDC開催	【港湾】 ■大船渡港で 国際貿易コンテナ 航路の定期周回 航路開始 【観光・世界遺産・その他】 ■連続テレビ小説「あまちゃん」放送 久慈に観光客殺到 ■「三陸復興 国立公園」創設 ■宮城・岩手県内の 災害廃棄物処理 完了	【交通】 ■三陸鉄道 全線復旧(※2) ■「SL銀河」 定期運行開始 ■JR山田線 宮古-釜石間の 三陸鉄道移管 に合意	【観光・世界遺産・その他】 ■「橋野鉄鉱山」が 世界文化遺産に 登録決定 	【災害】 ■平成28年 台風第10号 (岩泉町を中心に被害) 【観光・世界遺産・その他】 ■八戸市の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に 登録決定 ■「希望郷いわて 国体」開催	【港湾】 ■釜石港のコンテナ 定期便が本格始動 【観光・世界遺産・その他】 ■「アパッセルかた」 開業	【交通】 ■三陸鉄道 リアス線全線開通 復興支援道路 「東北横断自動車道 釜石秋田線 (釜石～花巻)」 全線開通 【港湾】 ■外国客船 スターレジェンドが 宮古港に初寄港 ■宮古・室蘭フェリー 就航 【観光・世界遺産・その他】 ■釜石鶴子居 復興スタジアム 完成	【災害】 ■令和元年 台風第19号 【港湾】 ■釜石港が「ポートオブ・ザ・イヤー2019」に選出 ■宮古港に 米クルーズ 船ダイヤモンド・プリンセス初寄港 【観光・世界遺産・その他】 ■釜石鶴子居 復興スタジアムで ラグビーW杯 フィジー 対 ウルグアイ 開催 (ナミビア対カナダは 台風19号の影響により試合中止)	【交通】 ■復興支援道路 「宮古盛岡横断 道路」全線開通 復興道路 「三陸沿岸道路」 全線開通	【交通】 ■復興道路 「三陸沿岸道路」 全線開通



- 復興往路
- 復興支援道路
- 復興支援道路 現道活用区間
- その他高規格道路
- フルインター
- ハーフインター
- ジャンクション
- 現道活用区間接続箇所

- 国道
- 高規格道路



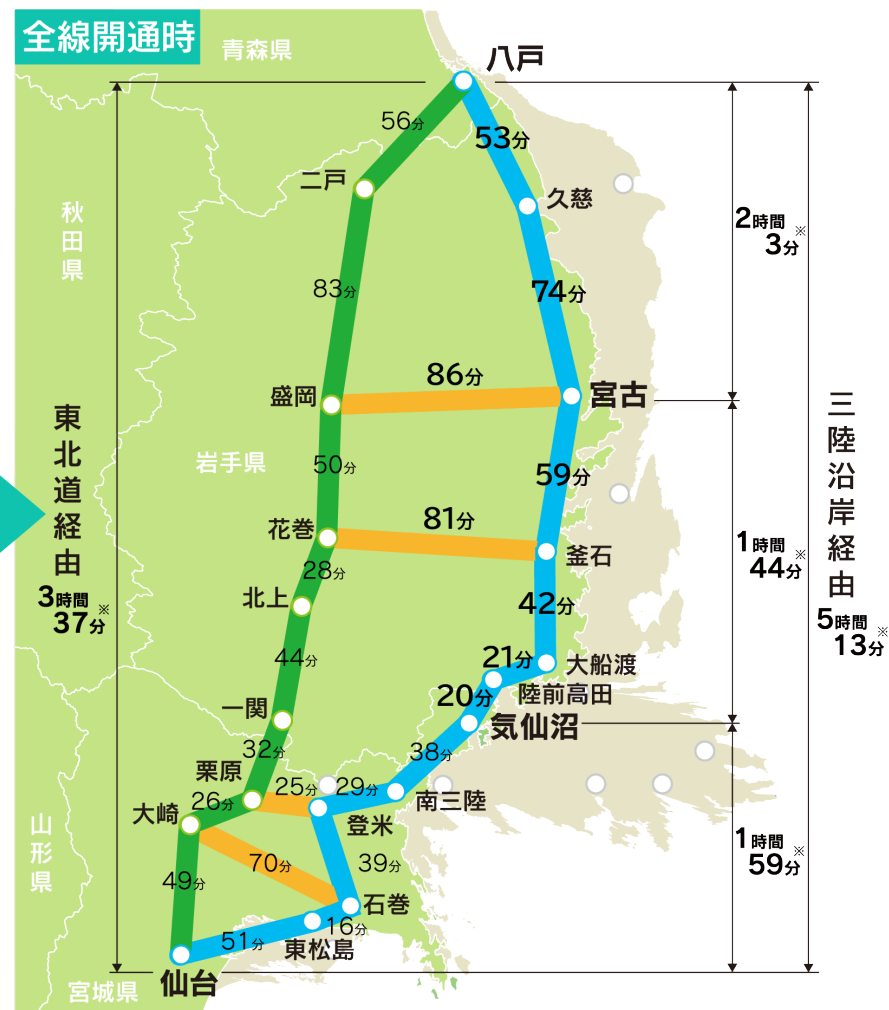
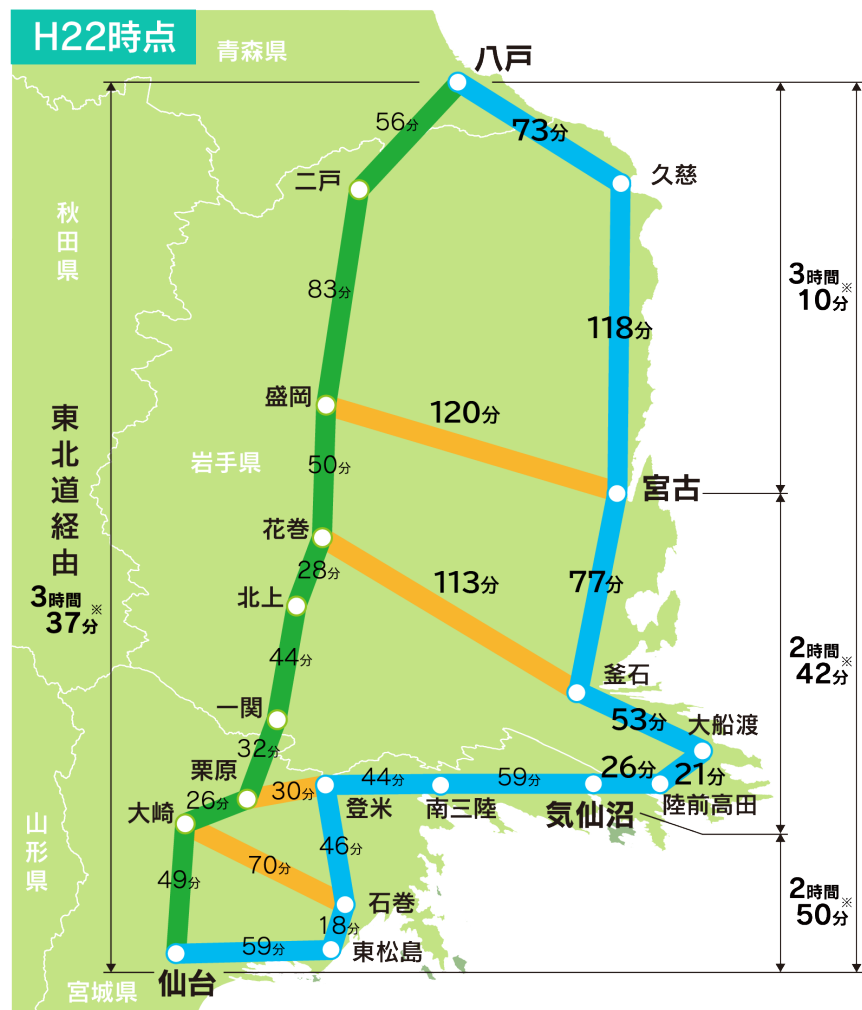
出典：H22…道路交通センサス

R4.1…トラフィックカウンターによる計測値（平日平均※）

※三陸沿岸道路（利府中IC～矢本IC）の通行止めが発生したR4.1.11 東北縦貫自動車道（北上金ヶ崎IC～戸IC）の通行止めが発生したR4.1.12～13は除く
 ※「平津戸・岩井～松草」の宮古盛岡横断道路、国道、「遠野住田～遠野」の国道、「相馬～福島」の国道は、R4.2.3（木）の現地計測値

三陸沿岸を「時間地図」で描く

※「距離」の代わりに、「所要時間」で位置関係を表現した地図



※役場間の所要時間のため、各区間の合計値と一致しない
出典：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査（昼間非混雑時旅行速度により算出）

復興道路・復興支援道路を利用した、新たな高速バス運行

実証実験

■ 久慈・八戸高速バス

(1日4往復)

実証運行：R3.8～R3.10



■ 宮古・気仙沼・仙台線 (1日2往復)

実証運行：R3.10～



■ 陸前高田-仙台 直行バス (1日2～3往復)

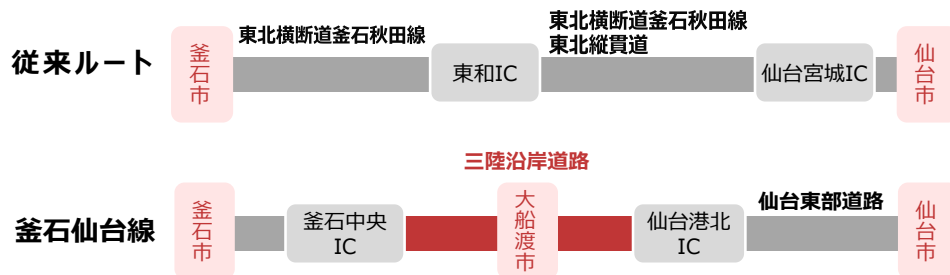
実証運行：R3.11～R4.1



ルート変更

■ 釜石仙台線 運行開始 (1日1往復)

ルート変更：R3.7～



所要時間
約3時間40分

所要時間
約3時間20分

従来ルートより
所要時間
約20分
短縮

所要時間出典:岩手県交通HP



■ 仙台気仙沼線

震災前※ 約2時間56分 6便

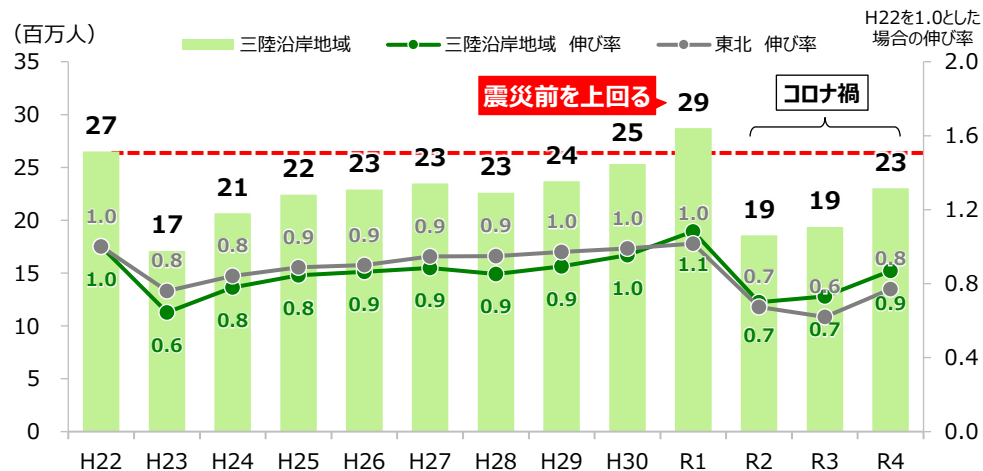
震災後 約2時間34分 12便

※震災前は仙台・南三陸線

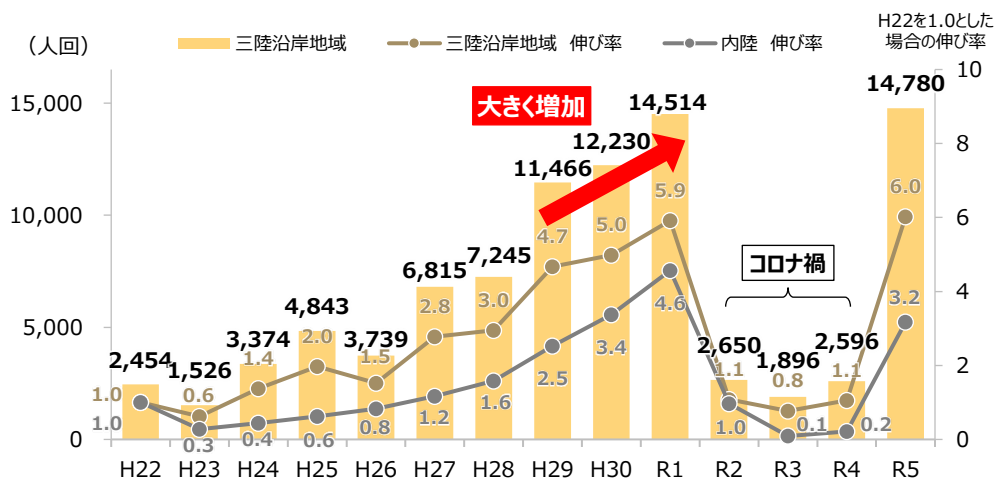
約22分 短縮

出典:復興道路10年パンフレット【宮城県版】 (株)ミヤコーバス ヒアリング結果
ミヤコーバス時刻表

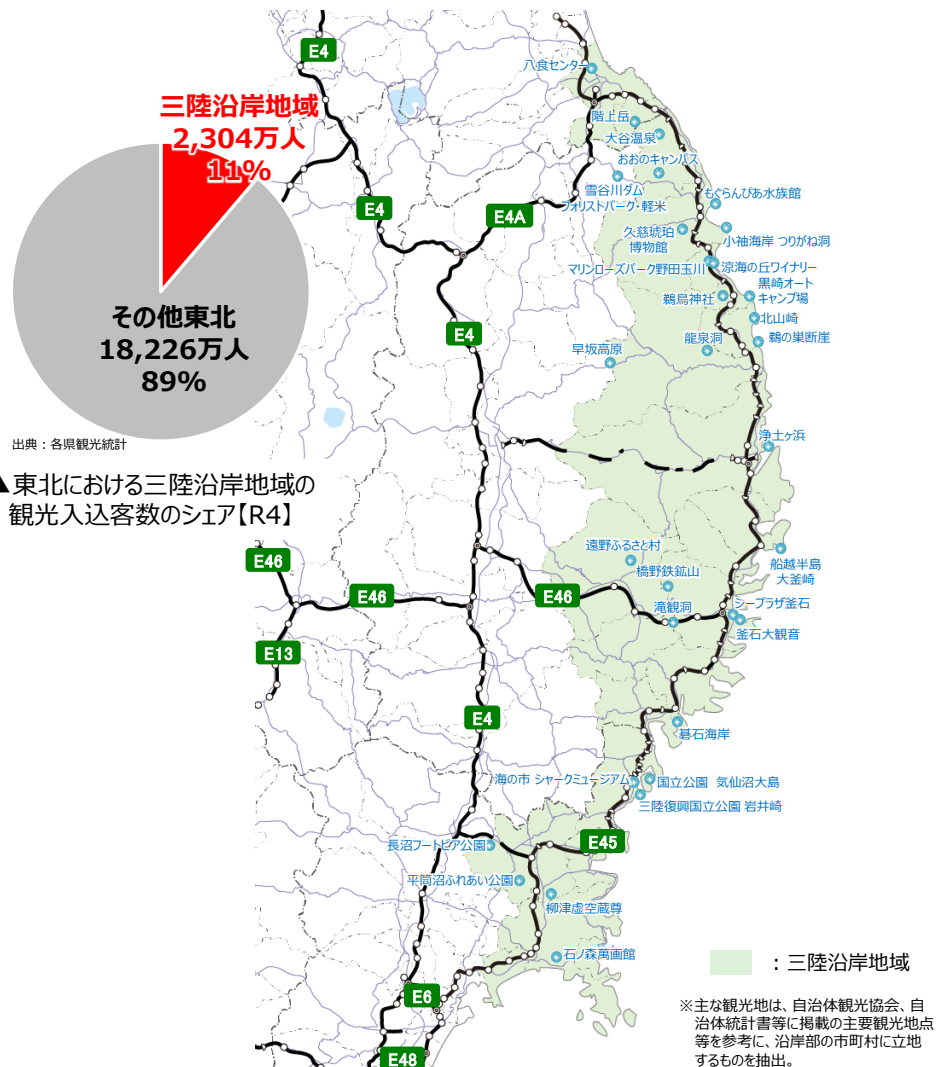
1-1-5. 観光客入込客数（八戸市～東松島市）



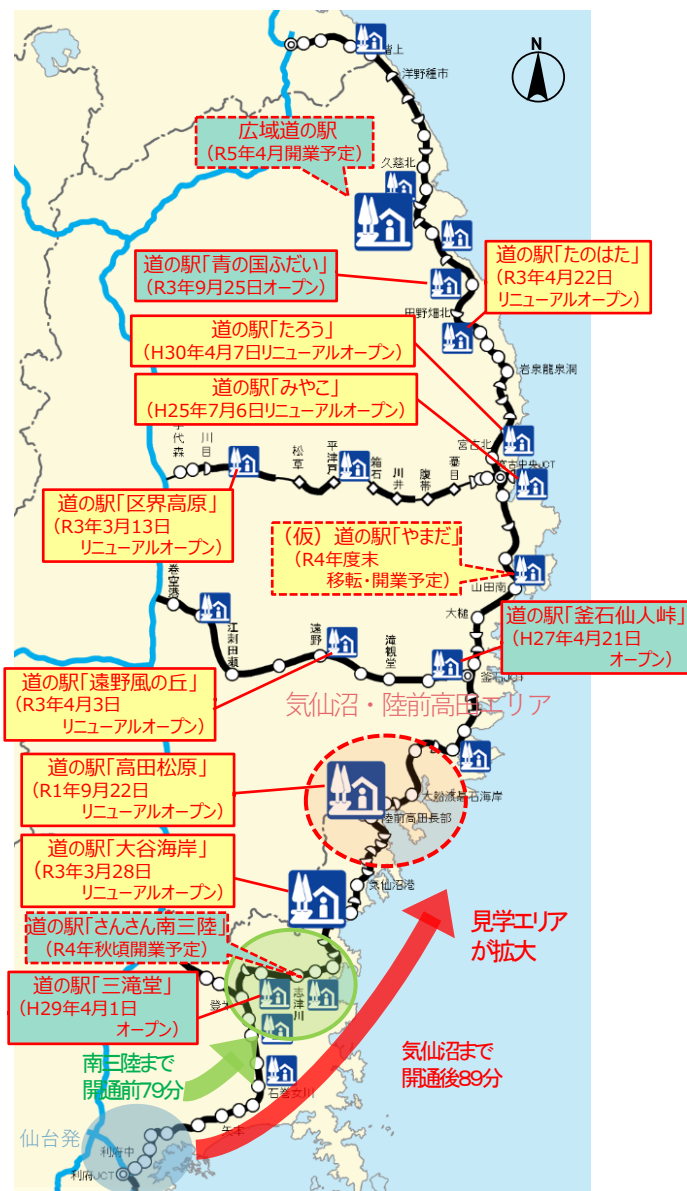
▲三陸沿岸地域の観光入込客数



▲外国人入込客数の推移（岩手県沿岸部）



▲三陸沿岸地域と主な観光地



三陸沿岸道路沿線の道の駅

：震災後開業

：震災後リニューアル

震災前（H23.1時点）	震災後（R4.7現在 ※開業予定含む）
<ul style="list-style-type: none"> はしかみ くじ のだ たのはた たろう みやこ 区界高原 やまびこ館 やまだ とうわ 遠野風の丘 さんりく 高田松原 大谷海岸 津山 上品の郷 	<ul style="list-style-type: none"> はしかみ くじ のだ たのはた (R3.4.22 リニューアルオープン) たろう (H30.4.7 リニューアルオープン) みやこ (H25.7.6 リニューアルオープン) 区界高原 (R3.3.13 リニューアルオープン) やまびこ館 やまだ (R4年度末 移転・リニューアルオープン) とうわ 遠野風の丘 (R3.4.3 リニューアルオープン) さんりく 高田松原 (R1.9.22 リニューアルオープン) 大谷海岸 (R3.3.28 リニューアルオープン) 津山 上品の郷
	<ul style="list-style-type: none"> 釜石仙人峠 (H27.4.21 開業) 三滝堂 (H29.4.1 開業) 青の国ふだい (R3.9.25 開業) さんさん南三陸 (R4秋頃 開業予定) 広域道の駅 (R5.4 開業予定)

震災後
5か所開業

計16か所

計21か所

1-1-7. 震災伝承施設の設置状況

復興道路沿線の震災伝承施設（第3分類）

	施設名	特徴・最寄りIC		施設名	特徴・最寄りIC
1	八戸市みなと体験学習館	グラフィック年表で震災発生から復旧・復興までを紹介。 八戸ICから約20分	17	東日本大震災津波伝承館	津波の事実と教訓を国内外と未来に伝える施設。 陸前高田ICから約6分
2	久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ	震災からの復旧・復興の歩みをタブレット等で紹介。 久慈ICから約7分	18	高田松原津波復興祈念公園	追悼と鎮魂、教訓の伝承、復興への意志の発信の場。 陸前高田ICから約6分
3	野田村復興展示室	震災全との記録と記憶をつなぐ展示・交流施設。 野田ICから約5分	19	気仙沼市復興祈念公園	追悼、鎮魂、防災、未来永劫の安寧を祈る場として整備。 浦島大島ICから約7分
4	震災遺構明戸海岸防潮堤	決壊した防潮堤を被災当時の姿のまま保存。 田野畑中央ICから約10分	20	唐桑半島ビジターセンター	施設改修のため長期休館中。 唐桑半島ICから約18分
5	羅賀ふれあい公園	明治三陸の津波石、昭和三陸の石碑を移設。 田野畑中央ICから約10分	21	リアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示	海とともに生きる地域の未来を考える美術館。 気仙沼中央ICから約8分
6	島越ふれあい公園	津波により流出した旧島越駅舎跡地に整備。 田野畑南ICから約11分	22	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	被災直後の姿を留めたまま保存整備。 大谷海岸ICから約10分
7	津波遺構たろう観光ホテル	震災遺構内でマスコミ未公開の映像を上映。津波の恐ろしさを伝える。 田老南ICから約5分	23	高野会館	自然災害の脅威や、防災減災の大切さを伝承。 志津川ICから約5分
8	たろう潮里ステーション	田老地区の震災・防災学習拠点。 田老南ICから約4分	24	海の見える命の森	世代を超えて風景という資産と震災の教訓を伝承する。 志津川ICから約7分
9	田老防潮堤	原形復旧と新たに整備された防潮堤を同時に望む。 田老南ICから約5分	25	石巻市震災遺構大川小学校	遺構、広場、大川震災伝承館で構成。震災をめぐる事象と教訓を伝える。 河北ICから約20分
10	震災メモリアルパーク中の浜	斜頸を駆け上がった津波の高さが一目でわかる。 宮古北ICから約15分	26	石巻ニューゼ	避難所に張り出した手書きの壁新聞等を展示。 石巻河南ICから約15分
11	宮古市市民交流センター防災プラザ	54の津波石碑を紹介。映像や防災クイズで学習。 宮古北ICから約8分	27	石巻市震災遺構門脇小学校	事前防災の重要性や地域を知ることの大切さを学ぶ。 石巻河南ICから約15分
12	山田町まちなか交流センター	証言映像やパネル展示を交え、震災の教訓や復興までの軌跡を紹介。 山田ICから約5分	28	東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館	語り部活動やジオラマ模型への避難経路投影などを通じて、伝承活動を継続。 石巻河南ICから約15分
13	大槌町文化交流センターおしゃっち	多くの住民が集う施設に震災の記録展示が共存。 大槌ICから約4分	29	石巻南浜津波復興祈念公園	犠牲者への追悼と鎮魂、復興への意志を発信する施設。 石巻河南ICから約15分
14	釜石祈りのパーク	東日本大震災の犠牲者を慰霊、追悼する施設。 釜石北ICから約4分	30	伝承交流施設 MEET門脇	市民目線での悲しみや失敗から未来の命を守る行動変化を喚起。 石巻河南ICから約15分
15	いのちをつなぐ未来館	次世代へ向けて防災学習を推進する拠点施設。 釜石北ICから約4分	31	東日本大震災慰霊碑 (日和幼稚園被災園児慰霊碑)	もう二度と同じ悲劇を繰り返さない為の教訓を伝える。 石巻河南ICから約13分
16	大船渡市立博物館	大船渡を襲った過去の津波の記録も展示。 大船渡基石海岸ICから約10分	32	東松島市東日本大震災復興祈念公園	伝承館、遺構、慰霊碑を一か所に整備。 鳴瀬奥松島ICから約10分

① 石巻エリア（石巻市・女川町） テーマ：震災復興による賑わいの創出を図る旅

- 石巻港ICから河北ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：石ノ森萬画館、日和山公園、いしのまきマンガロード、サイボーグ009ブロンズ像、シーパルピア女川 等（時間的余裕があれば金華山等も含める）
- 震災伝承遺構：石巻南浜津波復興祈念公園、石巻ニューゼ、東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館、伝承交流施設MEET門脇、旧北上川築堤事業、石巻市震災遺構大川小学校、震災遺構女川交番 等
- 道の駅：「上品の郷」、「おながわ」

② 登米エリア（登米市） テーマ：明治時代にタイムスリップできる旅

- 桃生津山ICから三滝堂ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：柳津虚空蔵尊、横山不動尊、みやぎの明治村、長沼フートピア公園、伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター、津島神社、石ノ森章太郎ふるさと記念館、チャチャワールド・いしこし 等
- 道の駅：「津山もくもくランド」、「三竜堂」、「米山」、「みなみかた」、「林林館」

③ 南三陸エリア（南三陸町） テーマ：伝承と海の幸を満喫できる旅

- 志津川ICから歌津ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：サンオーレそではま海浜公園、南三陸ホテル観洋、南三陸さんさん商店街、南三陸ワイナリー、荒島、さとうみファーム（シーカヤック）、さんさん館 等
- 震災伝承施設：海に見える命の森、南三陸町震災復興祈念公園（旧南三陸町防災庁舎）、震災遺構高野会館

④ 気仙沼エリア（気仙沼市） テーマ：復興施設と海の幸を満喫できる旅

- 大谷海岸ICから唐桑半島ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：モーランド・本吉、大谷海岸、岩井崎「潮吹岩」、気仙沼市漁港、海の市・シャークミュージアム、気仙沼湾クルージング、気仙沼湾横断橋、気仙沼大島大橋、リアス・アーク美術館、唐桑オルレ 等
- 震災伝承施設：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（旧気仙沼向洋高校）、気仙沼復興祈念公園、唐桑ビクターセンター・津波体験館
- 道の駅：「大谷海岸」

⑤ 陸前高田エリア（陸前高田市） テーマ：新たなまちと産業に触れ合える旅

- 陸前高田長部ICから通岡ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：黒崎仙狭、大滝小滝、玉乃湯、普門寺、気仙大工左官伝承館、高田松原発酵パーク CAMOCY、川の駅よこた、ワタミ・オーガニックランド 等
- 震災伝承施設等：高田松原津波復興祈念公園、東日本大震災津波伝承館（愛称：いわてTSUNAMI メモリアル）、奇跡の一本松、ハナミズキのみち、震災遺構タピック4 5、震災遺構気仙中学校、震災遺構ユースホテル、震災遺構米沢屋ビル、震災遺構下宿定住促進住宅 等
- 道の駅：「高田松原」

⑥ 大船渡エリア（大船渡市） テーマ：自然豊かで風光明媚な景色を味わえる旅

- 大船渡碁石海岸ICから吉浜ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：乱曝谷（らんぼうや）、穴通磯、碁石海岸、不動滝、吉浜の津波石、大船渡碁石海岸観光まつり、大船渡市さんま焼き師認定試験、灯ろう七夕まつり 等
- 震災伝承施設：大船渡市立博物館、大船渡市民体育館前屋外時計、潮目、茶茶丸パーク時計塔
- 道の駅：「さんりく」

⑦ 釜石エリア（釜石市・上閉伊郡） テーマ：鉄と魚とラグビーのまちへの旅

- 釜石南ICから大槌ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：釜石大観音、釜石市立「鉄の歴史館」、世界遺産橋野鉄鉱山、釜石鵜住居復興スタジアム、根浜海岸、蓬萊島、吉里吉里海岸、浪板海岸
- 震災伝承施設：うのすまい・トモス（釜石祈りのパーク、いのちをつなぐ未来館）、大槌町文化交流センター「おしゃっち」 等
- 道の駅：「釜石仙人峠」

⑧ 宮古エリア（宮古市・下閉伊郡）：断崖絶壁のスリルと津波の教訓が理解できる旅

- 山田南ICから普代ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設：浄土ヶ浜、青の洞窟、潮吹穴、宮古市魚菜市場、三陸シーカヤックスクール Sea-son、黒崎展望台、北山崎、普代浜園地キラウミ、堀内海岸、アンモ浦展望台 等
- 震災伝承施設：宮古市市民交流センター 防災プラザ、震災メモリアルパーク中の浜、田老防潮堤、たろう潮里ステーション、津波遺構たろう観光ホテル、東日本大震災津波記念碑、震災遺構明戸海岸防潮堤、羅賀ふれあい公園、島越ふれあい公園、普代水門、太田名部防潮堤、旧下安家地区応急仮設住宅、奇跡の東屋、野田村復興展示室 等
- 道の駅：「みやこ」、「たろう」、「いわいずみ」、「たのはた」

⑨ 久慈エリア（久慈市・九戸郡）：天然資源と海景色に恵まれた旅

- 野田ICから洋野種市ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：諏訪神社、小袖海岸、小袖海女センター、久慈琥珀博物館、新山根温泉べっぴんの湯、北限の海女、内間木洞 等
- 震災伝承施設：ケルン・鎮魂の鐘と光、地下水族科学館「もぐらんぴあ」 等
- 道の駅：「のだ」、「くじ」、「白樺の里やまがた」、「おおの」

⑩ 八戸エリア（八戸市・三戸郡皆上町）：北東北随一の工業都市への旅

- 階上ICから八戸是川ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設：八戸屋台村みろく横丁、種差天然芝生地、館鼻岸壁朝市、是川縄文館、八戸公園こどもの国、葦毛崎展望台 等
- 震災伝承施設：八戸市みなと体験学習館、八戸港震災復興メモリアル看板 等
- 道の駅：「はしかみ」、「なんごう」

1-2-1. 観光関係

【石巻・登米エリア】

- ・「おしか家族旅行村オートキャンプ場」も賑わっており土日の予約は困難になっている。
- ・北上川河口に商業施設も出来たので近くの石ノ森漫画館と併せて観光拠点にしたい。
- ・登米市の東側には山と河、西側には水田が広がり、グリーンツーリズムに適し、農泊・民泊が可能である。

【南三陸・気仙沼エリア】

- ・震災伝承施設「南三陸311メモリアル」がゲートウェイとなって、南三陸の観光コンテンツに繋いでいく。
- ・お帰りモネ効果もあって2千人/日程度の来客による宿泊客も増えたが、より滞在時間を増やすため観光と復興を絡めた取り組みなどの工夫が求められている。
- ・海の市2階に設置したモネ展(R3.7.22～R4.10.30)では、来館者数10万人を超えた。
- ・観光戦略を推進するため「気仙沼観光推進機構」を組織し、令和4年に引き続き令和5年度もテーマを震災に予定。岩手県との県際連携研究会で周遊観光を検討している。

【大船渡エリア】

- ・碁石海岸キャンプ場が賑わいを見せ、今年からフルオープン(冬場も含めて)と聞いている。
- ・高田松原伝承館の教育旅行が盛んだが、陸前高田市内には宿泊施設が少ないので、そこをゲートウェイとして大船渡や気仙沼へ向かうことになるが、大船渡温泉をはじめできる限り岩手県側で受け入れる考えだ。
- ・宮城県際連携としてドライブマップやデジタルスタンプラリーなども始まっている。

【釜石エリア】

- ・雪の少ない地域特性を生かして、道の駅で冬場でも力を入れてイベントを企画していく。
- ・潮風トレイルでは冬場は落葉し、一層見晴らしがよくなる景観の良さを強調しながら体験ツアーなどを誘導。

【宮古エリア】

- ・遊覧船「うみねこ丸」の冬場の運行もリピーターの確保のために行う。
- ・田野畑村の明戸キャンプ場は賑わっている。
- ・三陸鉄道普代駅を改修・増築し、昨年9月に道の駅「青の国ふだい」として登録、オープンした。

【八戸エリア】

- ・令和2年からマイクロツーリズム促進の観点から地域コンテンツのプロモーション活動を実施している。
- ・三陸沿岸国立公園協会と三陸ジオパークの2団体で三陸道の開通を契機とした利用促進を図る動きがある。

1-2-2. 三陸沿岸道路関係

【石巻エリア】

・石巻市河北町にある道の駅「上品の郷」が「じゃらん道の駅グランプリ2022」で全国2位の満足度評価になった。車中泊の評価が高かったとのこと。三陸道が全通し車中泊する利用者が増えた効果と思っている。

【登米エリア】

・道の駅「三滝堂」の立ち寄り台数が三陸道の整備とともに増加している。三滝堂の近くにある「ふれあい公園」にはBBQやキャンプ場が仙台ナンバーの車で賑わっている。

【気仙沼エリア】

・仙台市から気仙沼市に2時間弱で来られるようになり、これまで宿泊客が多かったが、日帰りが多くなり滞在時間が短くなった。気仙沼市の来訪客は今年のGWでは令和2年の1.2倍に増え、青森県ナンバーの車が多かった。

・大船渡市や南三陸町で水揚げされた魚が加工施設や物流施設が集積している気仙沼市に搬送されている。

【陸前高田エリア】

・仙台圏からの観光入込客数が増えており、三陸沿岸部では宮古市について2位となった。

【大船渡エリア】

・県内の観光客だけでなく仙台圏からの客が増えている。市内の宿泊者数も増加している。

【釜石エリア】

・釜石港のコンテナ取扱量はガントリークレーンの整備以降、年々増え続けており、コロナ前まで戻っている。

【久慈エリア】

・八戸久慈間の交通量は増大している。県都盛岡には国道281号経由から、三陸道開通後は宮古経由で復興支援道路利用が多くなっている。

・久慈の運送業者は、仙台以北において東北道でなく三陸道利用に切り替わりつつある。

・洋野町の宿泊施設では宿泊割か三陸道か分からないが宿泊客は戻りつつある。

【八戸エリア】

・青森県八戸地区と岩手県の久慈地区と二戸地区で組織する連邦会議を頻繁に開催。

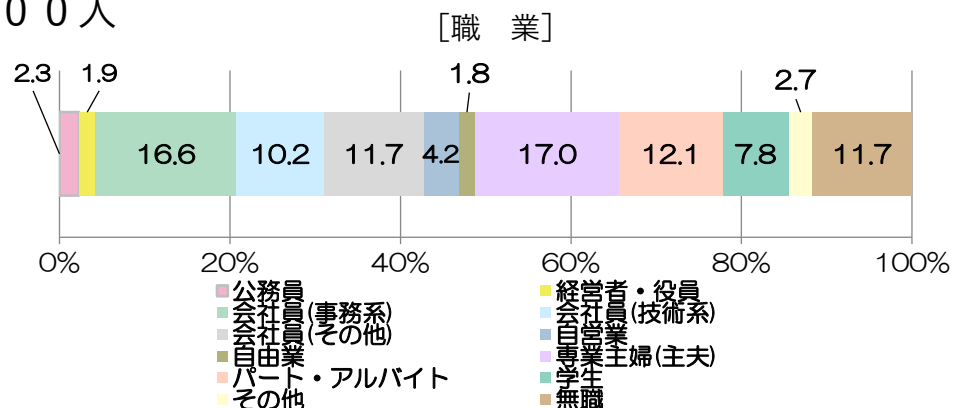
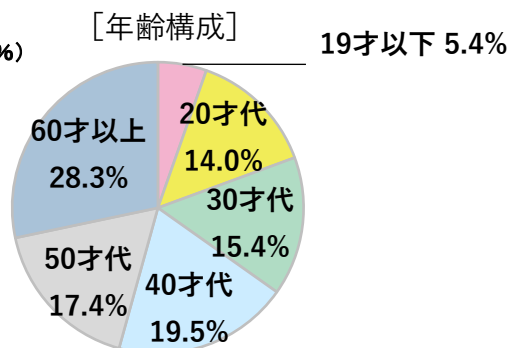
・県を跨いだスタンプラリーの連携事業が行われている。

・コロナ禍の影響が少なかったGWでは三陸道の交通量が多く感じた。

○目的：観光コンテンツ化に向けた震災伝承施設の認知度調査

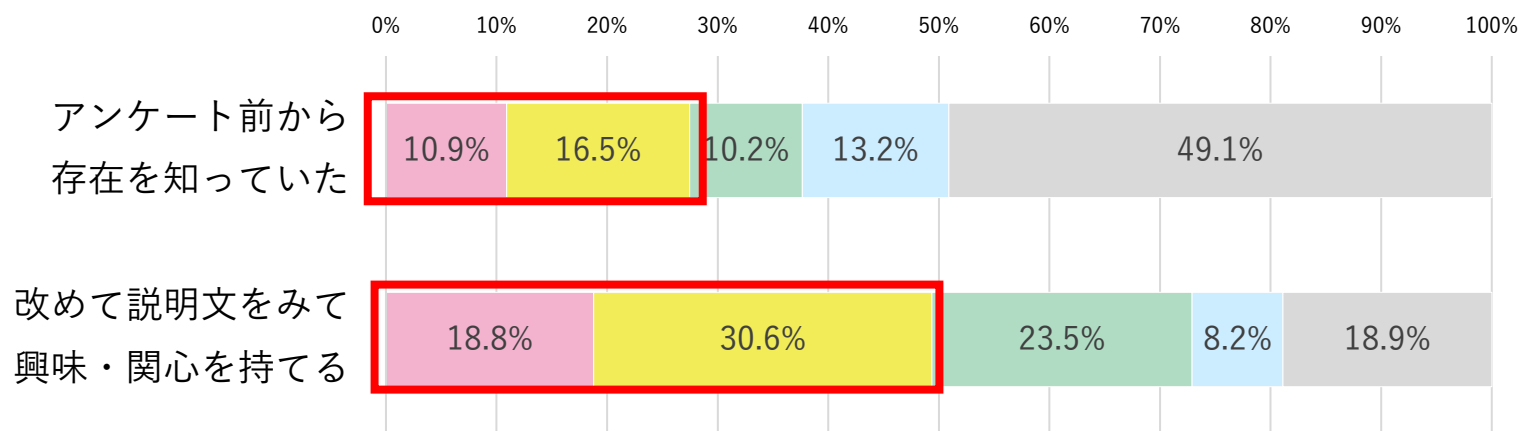
【属性について】対象者：首都圏（1都3県）5,000人

- ・調査対象者数 n=5,000 (100%)
- ・1都3県：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県
- ・男女同数



- 本調査実施前の震災伝承施設認知度は27%程度。
- 本調査を経て認知度は49%まで向上しており、丁寧な調査実施は認知度の向上に寄与することが確認できた。

[震災伝承施設の認知度] n=5,000



あてはまる ややあてはまる どちらともいえない あまりあてはまらない あてはまらない

※アンケート調査票で施設ごとの説明を行っている

1-3. 震災伝承施設に関するWebアンケート調査

○震災伝承施設別の認知度・訪問経験・(再)訪問希望

- 認知度が高い施設（5.7～13.4%）でも訪問経験は半分以下（2.2～2.7%）。
- 東日本大震災津波伝承館や大川小学校等、各項目上位の施設がある一方、認知度は上位ではないが、南三陸311メモリアル等、今回の調査で今後訪れたいと認識された施設もある。

[認知度（知っている施設）] 上位5施設

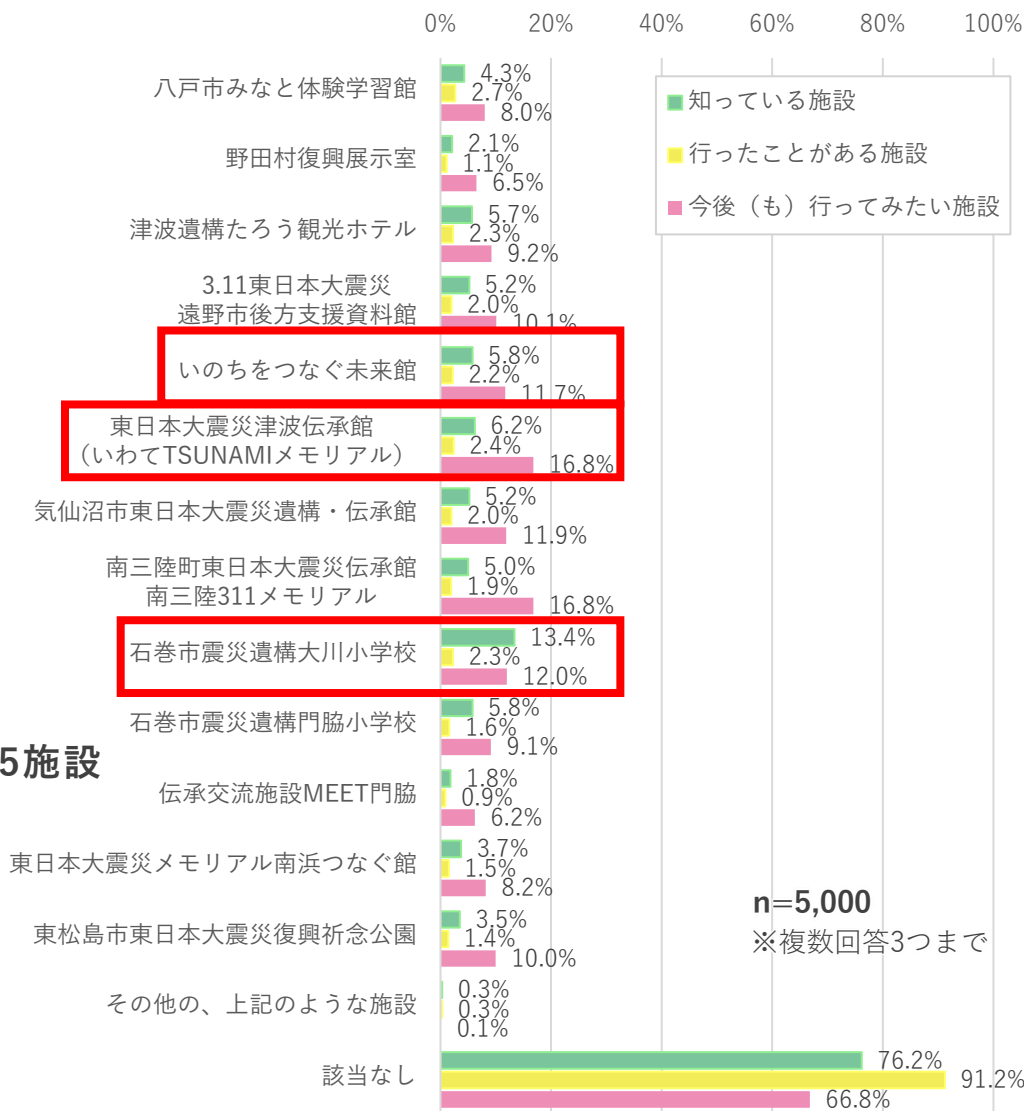
施設名	回答数	割合
石巻市震災遺構大川小学校	671	13.4%
東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）	312	6.2%
いのちをつなぐ未来館	292	5.8%
石巻市震災遺構門脇小学校	292	5.8%
津波遺構たろう観光ホテル	286	5.7%

[訪問経験（行ったことがある施設）] 上位5施設

施設名	回答数	割合
八戸市みなと体験学習館	136	2.7%
東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）	119	2.4%
石巻市震災遺構大川小学校	116	2.3%
津波遺構たろう観光ホテル	115	2.3%
いのちをつなぐ未来館	112	2.2%

[(再)訪問希望（今後(も)行ってみたい施設）] 上位5施設

施設名	回答数	割合
南三陸町東日本大震災伝承館 南三陸311メモリアル	841	16.8%
東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）	838	16.8%
石巻市震災遺構大川小学校	598	12.0%
気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	595	11.9%
いのちをつなぐ未来館	585	11.7%

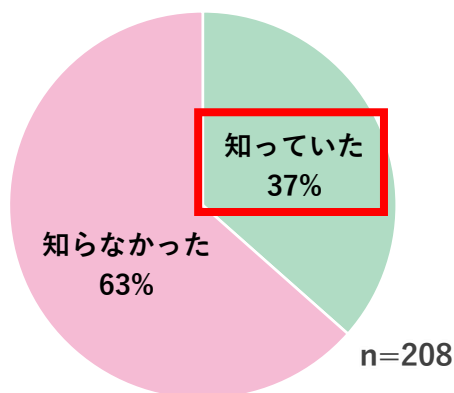


1-3. 震災伝承施設に関するWebアンケート調査

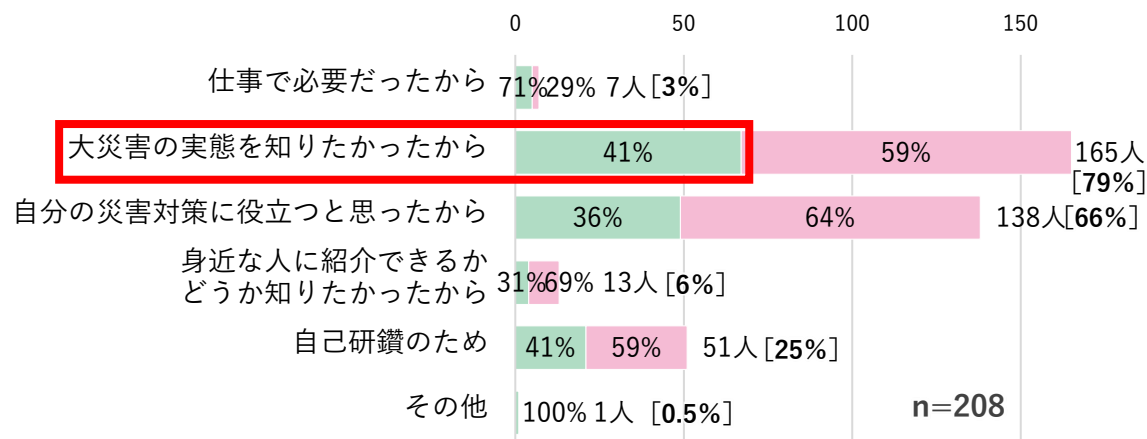
○震災伝承施設への関心等と三沿道の認知度

- 本調査の回答者で三沿道の認知度は37%程度。
- 「家族と一緒にいきたい」、「実態を知りたい」、「伝承施設を目的地にしている」方の三沿道認知度は回答者全体の三沿道の認知度より、高い傾向にある。
- 興味・関心ある理由では大災害の実態を知りたいが79%、家族と一緒にいきたいが66%、行くタイミングは震災伝承施設の近くに行ったときについでに48%と多い。

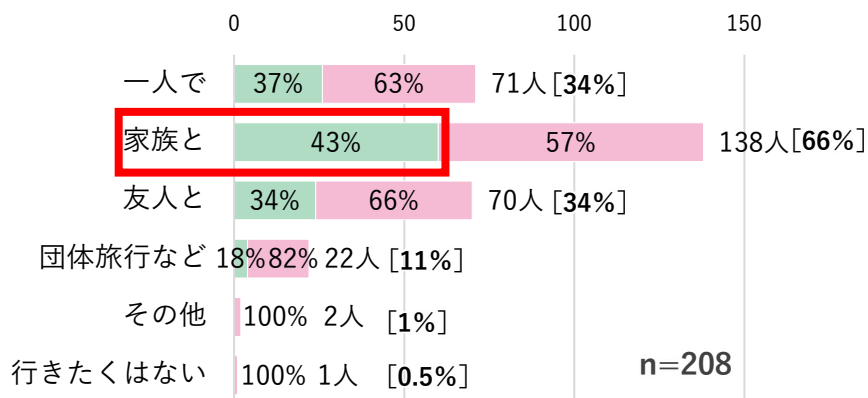
[三沿道の認知]



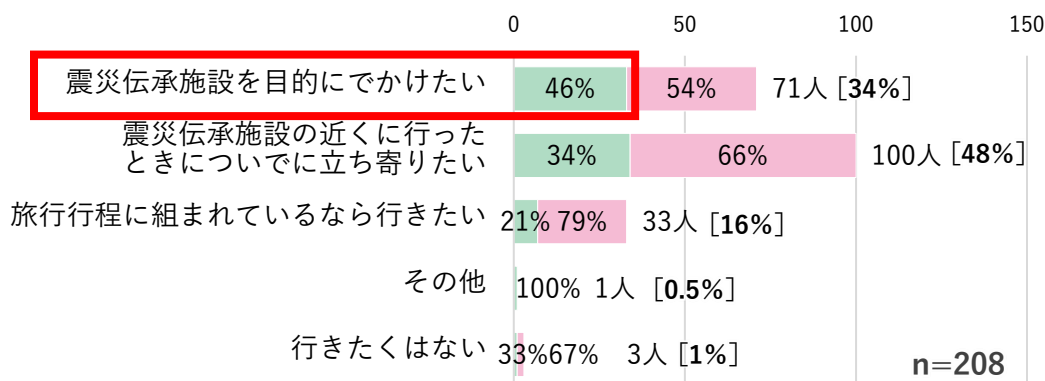
[震災伝承施設に興味・関心がある理由] ※複数回答可



[震災伝承施設と一緒にいきたい人] ※複数回答可



[震災伝承施設に行きたいタイミング]



2. モニターツアーの実施

2-1. 旅行事業者によるモニターツアー

モデルルートの検討にあたってはツアーの概要が理解できるテーマを設定。長い三陸沿岸をエリアの地形特性などに応じて、3コース（①宮城県（仙台～気仙沼）、②岩手県沿岸南部（陸前高田～宮古）、③岩手県北部と青森県（宮古～八戸））を設定した。

・行程は1泊2日 ・移動はバス ただし、観光特性に応じて鉄道などものの利用を考慮する。
モニターの考え方は、モデルルートは震災伝承施設と既存観光施設を融合させながら、三陸沿岸道路の利便性を最大限活用し、新たな観光需要を掘り起こす可能性となるようなルート設定。ルートやコンテンツの観光的価値を判断する必要から旅行業者によるモニターとした。（（一社）日本旅行業協会東北支部の協力のもと1ルート5名で実施）

2-1-1. ツアールート

1) Aルート 仙台～気仙沼ルート 9月7日(木)～8日(金)

・テーマ：産業復興と賑わいの創出

仙台駅発 = 野蒜ヶ丘団地 = 石巻南浜津波復興祈念公園 = シーパルピア女川 = 宿泊
= 道の駅「さんさん南三陸」 = 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 = 気仙沼内湾地区 =
すがとよ酒店 = 道の駅「かわさき」 = 一ノ関駅着

2) Bルート 陸前高田～宮古ルート 8月31日(木)～9月1日(金)

・テーマ：三陸リアス式海岸と震災の教訓を知る

一ノ関駅 = 東日本大震災津波伝承館 = 三陸鉄道（盛駅～釜石駅） = いのちをつなぐ未来館
= 宿泊 = 鵜住居川水門見学 = 大槌町文化交流センター「おしゃっち」 = 浄土ヶ浜 =
道の駅「やまびこ館」 = 盛岡駅着

3) Cルート 宮古～八戸ルート 8月24日(木)～8月25日(金)

・テーマ：自然が織りなす景観と津波防災を学ぶ

八戸駅発 = 八戸市みなと体験学習館 = 道の駅「いわて北三陸」 = 小袖海岸 = 普代水門 = 宿泊
= 北山崎断崖クルーズ = たろう「学ぶ防災」 = 浄土ヶ浜 = 道の駅「やまびこ館」 = 盛岡駅着

モニタールート① 宮城県（仙台～気仙沼）

P.20

テーマ：産業復興と賑わいの創出



モニタールート② 岩手県南部（陸前高田～宮古）

P.21

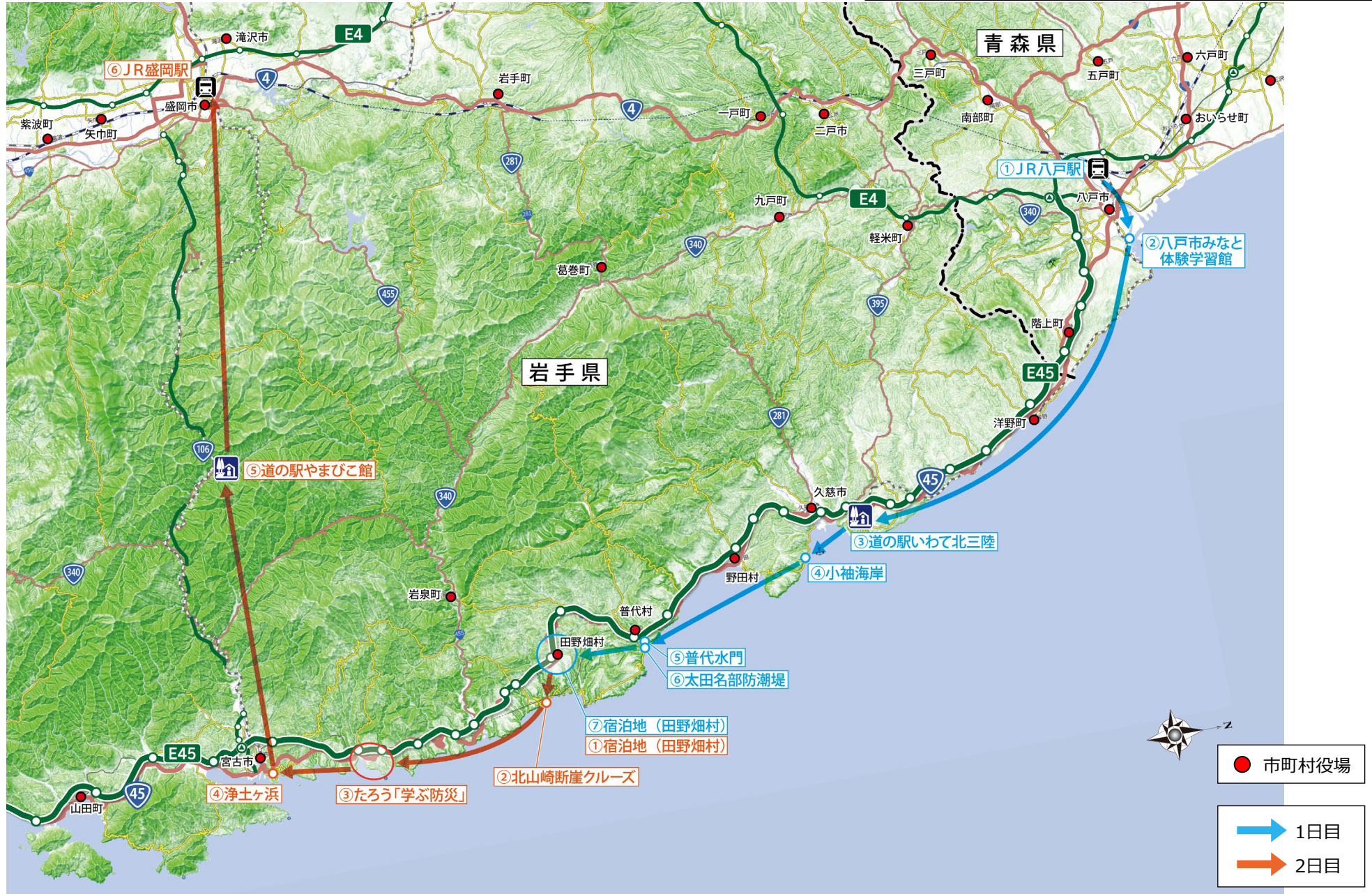
テーマ：三陸リアス式海岸と震災の教訓を知る



モニタールート③ 岩手県北部（宮古～青森県八戸）

P.22

テーマ：自然が織りなす景観と津波防災を学ぶ



2-1-2. モニターアンケート結果 属性と印象に残った施設

P.23

- 令和5年8月下旬から9月上旬にかけて、設定した3ルートでモニターツアーを実施。
- ルート毎に5名が参加し、アンケート調査で印象に残った施設を回答。
- 参加者は全員宮城県在住で男性73%（11人）、女性27%（4人）。
- 【カテゴリー】毎に印象に残った割合（印象に残った場所／施設数）を分析。

ルート	施設名	【カテゴリー】	【自治体】	印象に残った場所 【回答数】	【第3分類】
Aルート (N=5) (P=8)	野蒜ヶ丘団地	インフラ施設	宮城県	2	
	みやぎ東日本大震災津波伝承館	伝承施設	宮城県	2	●
	シーパルピア女川	商業施設	宮城県	0	
	震災学習プラン（いりやど）	学習施設	宮城県	3	
	南三陸311メモリアル	伝承施設	宮城県	1	●
	道の駅「さんさん商店街」	商業施設	宮城県	0	
	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	伝承施設	宮城県	2	●
	すがとよ酒店（被災からのストーリー）	学習施設	宮城県	1	
Bルート (N=5) (P=7)	東日本大震災津波伝承館	伝承施設	岩手県	1	●
	三陸鉄道（盛駅－釜石駅）	交通機関	岩手県	1	
	うのすまい・トモス	伝承施設	岩手県	4	●
	釜石鵜住居復興スタジアム	文化施設	岩手県	3	
	岩崎女将の講話（宝来館）	学習施設	岩手県	4	
	鵜住居川水門	インフラ施設	岩手県	1	
	大槌町文化交流センター「おしゃっち」	伝承施設	岩手県	2	●
Cルート (N=5) (P=6)	八戸市みなと体験学習館	伝承施設	青森県	2	●
	小袖海岸（海女の素潜り見学）	観光施設	岩手県	3	
	普代水門	インフラ施設	岩手県	1	
	太田名部防潮堤	インフラ施設	岩手県	0	
	北山崎断崖クルーズ	観光施設	岩手県	0	
	たろう学ぶ防災ガイド	伝承施設	岩手県	4	●

【印象に残った施設：カテゴリー別】

カテゴリー	施設数 (A)	印象に残った 場所(B)	印象割合 (B/A)
伝承施設	8	18	2.25
学習施設	3	8	2.66
観光施設	2	3	1.50
商業施設	2	0	0.00
文化施設	1	3	3.00
インフラ施設	4	4	1.00
交通機関	1	1	1.00

【印象に残った施設：自治体別】

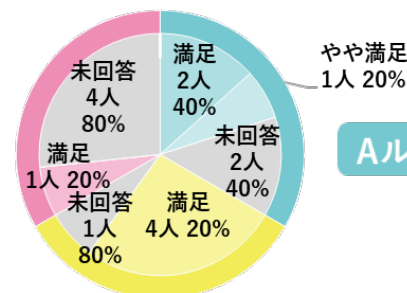
自治体	施設数 (A)	印象に残った 場所(B)	印象割合 (B/A)
宮城県	8	11	1.38
岩手県	12	24	2.00
青森県	1	2	2.00

【満足度】

Cルート

Bルート

Aルート



2-1-2. モニターアンケート結果 カテゴリー別「評価できる点」と「課題」

P.24

- 施設に対する自由意見から、「評価できる点」と「課題」を整理。「印象に残った場所」でも課題の指摘あり。
- 伝承施設では、現状で観光資源としてのポテンシャルを有するものの、課題として見せ方などの工夫が必要との意見を得ている。
- 観光施設については悪天候時の代案が必要、商業施設は内容に対する課題が提示されている。

カテゴリー	施設名	評価できる点	課題
伝承施設	八戸市みなと体験学習館	非常食を食べられるという点にはない視点である。	ターゲットを明確にし、他の施設との差別化が必要。
	南三陸311メモリアル	「考えさせる」「話し合いをさせる」ことで、理解が深まる。観光の場所としても良く、リピートできる場所だと思う。	—
	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	実際の遺構を見ながら学生の語り部による案内は、商品としてもポテンシャルが高いと思う。	—
	みやぎ東日本大震災津波伝承館	ターゲットが明確であり、震災を経験していない人向けの入り口には最適。ツアー商品化しやすいコンテンツで団体の立寄場所となり得る。	解説員の説明技術向上、VRの精度向上など改善が必要。交通アクセスにも課題がある。
	たろう学ぶ防災ガイド【印象に残った場所】	既に完成されたコンテンツだと思う。教育旅行でもすぐに紹介・コース組込みができる。	外国の方に対して、PRを強化する必要がある。
	東日本大震災津波伝承館	展示や説明に工夫があり、ガイドを聞いたうえで見学をすると理解が深まる。ストーリー性がある。道の駅と併設なのも良い。有料化が妥当。	他の伝承施設との差別化、団体だけでなく、個人向けのガイド設定があるとより理解しやすい。
	うのすまい・トモス【印象に残った場所】	小さな施設ではあったが、沢山のことを学べる場所。防災学習だけでなく、トイレ・バス駐車など多くの利用ができる点も良い。	周辺施設を巻き込んだPR素材（YouTube、Instagramなど）での発信も効果的。
	大槌町文化交流センター「おしゃっち」	市民の「日常」を知れる場所でもあることが魅力的な施設。日常で活用しながら伝承されていることは、これからも伝承していくという点では効果的。	日常の中で防災を学べる施設として、施設内での紹介の他に周辺ガイドやフィールドワークと組み合わせても良い。
インフラ施設	野蒜ヶ丘団地	講話の内容は良く、ガイドとセットであれば商品化もあり得る。団体を受け入れることができると知ってもらえる機会になるだろう。	見学施設を関連するものを含め広範囲にし、誰に向けてのものなのか明確にする必要がある。
	普代水門	実際の津波の高さを体感でき、視察・学習には良い。	事前学習（予備学習）が必要なのは難しく、ガイド技術向上も必要。ターゲットも不明確。
	太田名部防潮堤	—	普代水門と関連づけた施設とした方が良い。
	鵜住居川水門	釜石の地形や様々な話を聞いた上では効果的な立ち寄りスポット。様々な釜石のコンテンツをつなげると教育旅行に限らず、企業向けの企画が可能。	見学場所が野外のため、天候や気候に左右されるコンテンツだと思うので、他施設とパッケージにしたり、映像での照会があるとより分かりやすい。

- 施設に対する自由意見から、「評価できる点」と「課題」を整理。「印象に残った場所」でも課題の指摘あり。
- 伝承施設では、現状で観光資源としてのポテンシャルを有するものの、課題として見せ方などの工夫が必要との意見を得ている。
- 観光施設については悪天候時の代案が必要、商業施設は内容に対する課題が提示されている。

カテゴリー	施設名	評価できる点	課題
学習施設	震災学習プラン（いりやど） 【印象に残った場所】	外国からの訪問者も含め対応方法が多岐にわたり、説明内容は分かりやすい。	開催時間は検討が必要。
	すがとよ酒店	気仙沼コンテンツの1つとして一般団体やFITにもおすすめしたい。	—
	岩崎女将の講話（宝来館） 【印象に残った場所】	映像より女将さんの言葉で体験談をお話された方が心に響き、未来について話されている点にとっても感動。	—
観光施設	北山崎断崖クルーズ	絶景を体感でき、所要時間的にもコースにも組み込みやすい。	天候に左右されやすく、乗船容量も限定的であり教育旅行には不向き。
	小袖海岸（海女の素潜り見学） 【印象に残った場所】	FITにもおすすめしたいし、プライベートツアーにも活用可能。	ターゲットが限定的で、団体旅行は斡旋しにくい。
商業施設	シーパルピア女川	他地区とは異なる復興プロセスを伝えることが可能。そこに需要があるかもしれない。	遺構の管理・案内方法について再検討が必要。併設する施設の商品等も再検討が必要。
文化施設	釜石鵜住居復興スタジアム 【印象に残った場所】	周辺のプログラムと合わせて組み入れる事ができる事が良い点。のスタジアムをどう利活用していくか学生達や企業研修で話し合うのも良い。	催しや他スポーツなどでも使用できる企画書があると具体的な話がしやすい。

※三陸鉄道（盛駅－釜石駅）については、コメントなし

- モニターツアーに対して、自由意見では好意的な意見が大半を占める。

【コンテンツに対する意見】

1. 商品への展開

- ・今回学ばせて頂いた内容を基にどのような誘客が出来るかを検討したいと思います。
- ・インバウンド向けにコンテンツのブラッシュアップ、ルート設定等検討させていただきます。
- ・伝承施設について、「ダークツーリズム」として普及させ、世界各国及び国内の方との交流のきっかけになる事ができればと思いました。

2. 教訓の伝承

- ・東日本大震災の悲惨さや教訓は大事なのだが、震災を知らない子供達には悲惨な出来事だけを伝えるのではなく、「生き残る為の教訓や知識」を伝える施設が増えると良いと思う。
- ・生き残る術を学べる事により、未来永劫大震災の事実を後世に残していけるのだと思う。これから先の未来に残すべきは、悲惨さのマイナス面より、プラスの発想が必要なのだと感じます。
- ・世界中の人に発信すべき事象だと改めて感じました。
- ・だんだん風化していく中で、残すことを大切にしていってほしい。

【ツアーに対する意向や感想】

- ・伝承館をめぐることで各地を比べることができて、セットでご案内するツアーも良いなと思いました。
- ・田老での防災ツアーなど、体験ツアーがあれば是非参加したいと思います。
- ・今後、ツアーを組む際のアドバイザーとして各旅行会社へ提案等お願いします。
- ・訪問地の地域の皆さまとのつながり、語り部や会場の確保、行政とのつながりを南北に共有する働きかけは、重要な働きかけと思います。
- ・短期間でまわると、施設比較や飲み込みが良いので為になりました。
- ・現地に足を運んで学ぶということは、まさに百聞は一見にしかずの言葉通り換え難い経験であると思います。

2-2-1. 台湾教育関係者について

台湾は日本と同様に地震や風水害が多く、災害の類似性が高いこと。また、東日本大震災では海外で最も多くの義援金を提供があったことから、東日本大震災の災害伝承施設への興味や価値が理解されやすい。さらに、当機構としても令和4年から高校へのセールスコールを実施し、容易に教育関係者の招請が可能であることを考慮した。

○台湾教育関係者モニターツアー期間

・日程：2023年9月24日～9月27日4日間

○招請旅行の概要

- 1) 震災伝承施設も含め、岩手・宮城県にある施設
- 2) 学校交流や体験学習ができるように配慮
- 3) 日本の歴史や文化にも触れていただく

○台湾教育旅行招請者5名

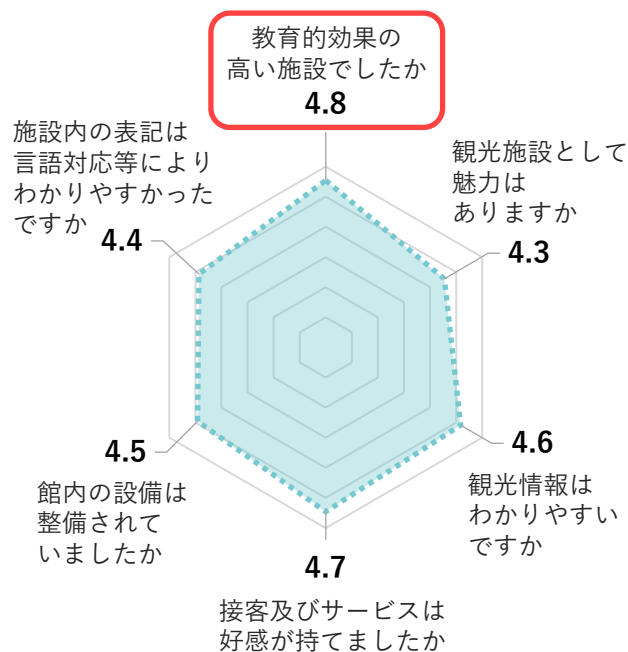
台北市政府教育局関係者1名、台北市内高校の校長2名と学務主任2名

○モニターツアーの行程

- 1日目：仙台空港 発 = 震災遺構仙台市立荒浜小学校【震災学習】 = ホテル松島大観荘（宿泊）
- 2日目：ホテル発 = 松島語り部クルーズ【震災学習】 = 松島高校おもてなしツアー（生徒案内）
= 瑞巖寺、円通院、福浦橋【学校交流・見学】 = 昼食 = 奥松島KIBOTCHA漁業体験視察【体験学習】
= みやぎ東日本大震災津波伝承館【震災学習】 = 石巻市震災遺構門脇小学校【震災学習】
= いしのまき元気いちば（買い物） = 南三陸ホテル観洋（宿泊）
- 3日目：ホテル発 = 南三陸病院【震災学習】 経由 = 南三陸311メモリアル【震災学習】
= 昼食 = 東日本大震災津波伝承館【震災学習】 = 岩手県立遠野緑峰高等学校訪問【学校交流】
= 遠野ふるさと村そば打ち体験等視察【体験学習】 = 花巻温泉紅葉館（宿泊）
- 4日目：ホテル発 = 中尊寺【体験学習・見学】 = 宮城県表敬訪問 = 昼食 = 仙台市表敬訪問
= 仙台国際空港 着

- 「教育的効果」としては、「震災学習」施設等が高く、その他「観光施設としての魅力」、「サービス」等は、「体験学習」施設等が高い評価を得ている。
- 学校交流は、設問項目全体的に高評価を得ている。

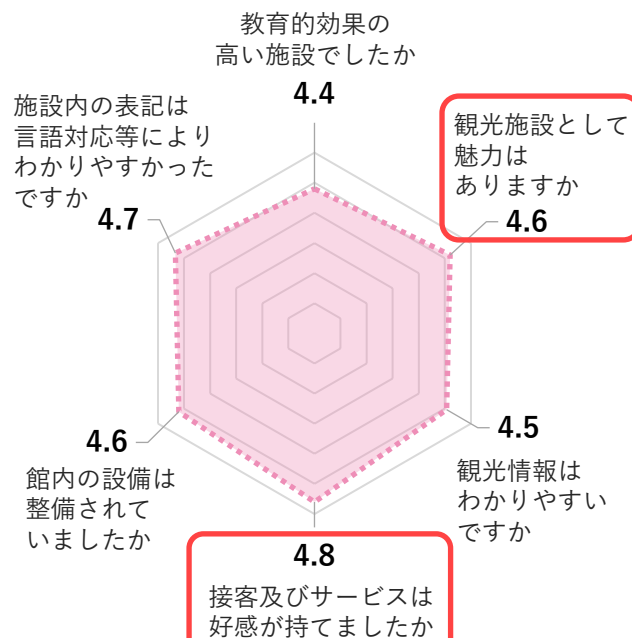
[震災学習]



[震災学習 施設等]

- ・震災遺構仙台市立荒浜小学校
 - ・石巻市震災遺構門脇小学校
 - ・南三陸311メモリアル
 - ・東日本大震災津波伝承館
 - ・松島語り部クルーズ
 - ・みやぎ東日本大震災津波伝承館
 - ・南三陸病院
- N = 7

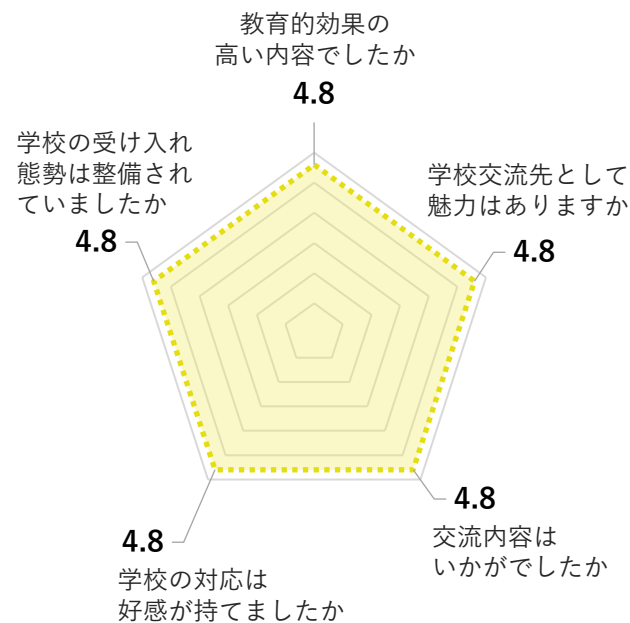
[体験学習]



[体験学習 施設等]

- ・奥松島KIBOTCHA
 - ・中尊寺
 - ・遠野ふるさと村体験学習
- N = 3

[学校交流]



[学校交流 施設等]

- ・松島高校おもてなしツアー
 - ・遠野緑峰高校訪問
- N = 2

計12

- 震災学習のおすすめ施設としては、被災状況が残されている「遺構」、大規模な「資料施設」が挙げられている。
- 台湾からの教育旅行に活用する際の改善点として「中国語での説明」、外観だけではなく、実際

〔震災学習〕に見て・触れられるコンテンツが必要との指摘が挙げられている。

N = 7

施設等	参加者 お勧め	主な魅力的な点	主な改善点
震災遺構 仙台市立 荒浜小学校	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災教育や生命教育を教える学習の場として活用できる。 ・ 3.11の日の津波の威力と破壊状況が分かりやすく、更に復興に日本の努力と苦労が見られた。 ・ 震災予防の学習意義があり、学生がより命を大切にできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休憩室の提供。訪問者が消化できる程度の情報量。 ・ QRでの翻訳等があれば、外国人のお客様はもっと理解ができる。
石巻市 震災遺構 門脇小学校	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波は水害だけでなく、火災による災害も引き起こすので、この遺構は訪れる価値がある。 ・ 学生の防災意識を高め、命の尊さを解き明かすことができる。 ・ 被災した建物を残して解説、補助写真で表現し教訓を教え、未来に向かうことを世間に知らせ、生命教育の意義を極めて備えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能であるならば、少し空いている場所に椅子を置く。 ・ ガイド通訳機を提供すると参観者が自分のペースで聞きたい解説を聴く。
南三陸311 メモリアル	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像を見ながら問題について討論をすることで、内心の感想を言う機会があってよい。 ・ 「自然とは何か、生きるとは何か」を深く考えさせられた。諦めずに前向きに支え合っている姿が見れた。 ・ 中国語版の紹介が素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオ鑑賞、作業指示書学習、グループディスカッションだけでは教育旅行としての深さがやや不足。
東日本大震災 津波伝承館	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最新の科技設備を使い、津波の情報を呈し、相当魅力で人を惹きつける。 ・ 学生の防災意識を高め、命の尊さを解き明かすことができる。 ・ 史書データ及びビッグデータ分析の整理整頓。 	—
松島語り部 クルーズ	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本三景のひとつ・松島を知る ・ 松島の島々は津波発生時に防潮堤の役割を果たしたこと、津波発生時の状況を理解することができた。 ・ 松島湾の景色を案内するのはすばらしく、語り部の方との交流や感想を共有することは非常に勉強になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象が高校生の場合は、簡単に答えやすい質問とすることをお勧めします。 ・ 語り部は学生さん向けかと思う。当時の内容もっと生き生きと、鮮やかにお話すること。
みやぎ 東日本大震災 津波伝承館		<ul style="list-style-type: none"> ・ 最新技術を活用し当時の様子を伝えていくことは、将来の子供達にとって最良の歴史教育である。 ・ 学生の防災意識を高め、命の尊さを分かりやすくすることができる。 ・ 歴史データと写真は論理的で、教育的意義がある。 ・ 統計データの分析・整理が完全で具体的でわかりやすく、印象的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中国語での説明があればもっといい。
南三陸病院		<ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾の学生にこの病院の再建は、台日双方が共同で完成したことを知ってもらう。 ・ 台湾の義援金で建てられた病院、南三陸の住民にとって不可欠な主要病院だと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の外でしか写真を撮ることができないなら、教育旅行として計画すべきではない。

2-2-2. モニターアンケート結果 体験学習・学校交流別「魅力的な点」と「改善点」p.30

- 体験学習のおすすめ施設としては、「奥松島KIBOTCHA」、「中尊寺」が挙げられており、日本を代表する観光地が挙げられている。
- 体験・交流とも事前のレクチャーや体験・交流する際の十分な時間の確保が求められている。

[体験学習]

N = 3

施設等	参加者 おすすめ	主な魅力的な点	主な改善点
奥松島 KIBOTCHA	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災、避難教育施設はとても創造的。学生さんにとっては魅力的で学習しやすい。 ・ 屋外で、キャンプやキャンプファイヤー等の活動は若い学生さんには身近で受け入れやすい。 ・ フロアごとに貸切できるので学校側の管理がしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業体験や海上運動は、学生が十分に体験できるように計画する必要がある。
中尊寺	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産は学生に紹介することができる。 ・ 日本の歴史が感じられる場所です。 ・ 殿堂内で中国語解説が流れているのは素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行く前にバスの中で学生さんに歴史の意義を説明すべき。
遠野 ふるさと村		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が日本の伝統食作りを実際に体験できる機会を与える。 ・ 日本の伝統的な家屋建築を見学させたり、現地環境の自然を体験させたりすることができます。 ・ 接客スタッフの熱意、解説がはっきりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり学生さんを惹きつけることがない。 ・ もう少し明かりを明るくすることをお勧めします。 ・ そば打ちを実際にどのようにするのかお手本を見たかった。

[学校交流]

N = 2

施設等	参加者 おすすめ	主な魅力的な点	主な改善点
松島高校	●	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生ガイドから直接話を聞けるのが学生にとって印象に残り、歴史の魅力を感じることができる。 ・ 歴史古跡はすべて教育的意義があり、学ぶ価値がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が訪問する際は、十分な時間をお土産屋さんを訪れることをお勧めします ・ 対象が高校生の場合は、簡単に答えやすい質問を設計することをお勧めします
遠野緑峰高校		<ul style="list-style-type: none"> ・ 校長先生や副校長先生の説明が相当分かりやすい。 ・ 学生さんの交流機会を提供できる。 ・ 台日双方の教育交流を行い、互いの教育環境と設備を理解し、異なる教育方法を体験することができる。 	—

3-1. 狙い

本事業（New Destinationプラン）の3年目として、これまでの議論の集約と周知の観点から情報発信を行うことにしている。

狙いは、東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸の被災地では、復旧・復興し、三陸沿岸道路の整備により、沿線エリアは劇的な変化を遂げている。経済、社会、産業が大きく変化する中でどのように地域が変化したのか。これまでの議論を踏まえ、域内とともに域外への人に地域の魅力を伝え、地域活性化の支援を行うものである。域内に対しては地域活性化フォーラムの開催、域外に対しては、新しい三陸の魅力を伝える映像制作を行う。

3-2. 地域活性化フォーラムについて

これまでの議論のベースステーションとした「三陸沿岸道路エリア活性化検討会」のメンバーやモニターツアー参加者などの協力を得ながら、地域活性化フォーラムを開催する。

長い三陸沿岸道路であることから、多くの方に聞いていただけるように、岩手県と宮城県にある沿線の2都市で開催することになっている。以下に開催の骨子を示す。

- 1) **タイトル** 「三陸の新しい魅力」～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～
- 2) **開催地** 宮城県気仙沼市と岩手県釜石市 2箇所 会場は100人規模で開催
- 3) **対象** 一般市民、震災伝承関係者、観光関係者等
- 4) **フォーラムの構成** 基調講演＋パネルディスカッション
- 5) **参加費** 無料

3-2-1. フォーラム開催概要

- (1) 目 的 復興後に整備された三陸沿岸道路と震災伝承施設の魅力について発信する。
- (2) タイトル 「三陸の新しい魅力」～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～
- (3) 開催日と開催場所

- ①9月11日 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館「体験交流ホール」 募集定員100名
- ②10月2日 釜石市民ホール「TETTO」 ホールB 募集定員100名

(4) フォーラムの構成

- ①基調講演 東北大学災害科学国際研究所 教授 奥村誠氏（三陸沿岸道路エリア活性化検討会の座長）
演題「未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割」

②パネルディスカッション

- ・コーディネーター 石巻専修大学 教授 庄子 真岐 氏
- ・アドバイザー 3.11伝承ロード推進機構 原田 吉信

●気仙沼市開催

- ・パネリスト 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 福岡 麻子 氏
- 南三陸ホテル観洋 女将 阿部 憲子 氏
- 近畿日本ツーリスト(株)仙台支店 豊島 恵美子氏（モニターツアー参加者）
- (株)日本旅行東北 橘 えりか 氏

●釜石市開催

- ・パネリスト いのちをつなぐ未来館 川崎 杏樹 氏
- 宝来館 岩崎 昭子 氏
- 日本航空（株）東北支社 根尾 奈那 氏（モニターツアー参加者）
- (株)日本旅行東北 後藤 博美 氏（モニターツアー参加者）

3-2-2. フォーラムのプログラムと広報

1) プログラム

- | | | |
|-----------------|-------|---------------------------|
| (1) 開場 | 13:00 | |
| (2) 開演 | 13:30 | |
| (3) 挨拶 | 地元首長 | (気仙沼市長※：※代理副市長)
(釜石市長) |
| (4) 基調講演 | 45分 | (奥村氏講演：2カ所共通) |
| (5) パネルディスカッション | 60分 | (女性による三陸の魅力の発信) |
| (6) 閉会 | 15:30 | |

2) 広報 リーフレット

3.11 DEV'SHO ROAD

三陸の新しい魅力

9月11日 2024年 水

参加無料 定員100名 13:30～15:30(開場13:00)

当機構では、三陸沿岸道路や震災伝承施設を活用し、新たな交流人口を呼び込む取り組みを進めています。このフォーラムでは、これまで実施したモニターツアーや検討会での意見をもとに、三陸沿岸地域の魅力を皆さんと一緒に考えます。ぜひご参加ください。

基調講演

未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割

講師 奥村 誠氏 東北大学災害科学国際研究所 教授

京都市出身。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同大学助手、講師、広島大学助教授を経て、2006年より東北大学教授。地域計画・土木計画を専門とし、ブラジル、シベリア、ポリビアでのプロジェクトにも関わる。博士(工学)。

女性が語る三陸の新しい魅力

～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～

パネリスト

庄子 真岐氏 福岡 麻子氏 阿部 寛子氏 登島 恵美子氏 橋 えりか氏 原田 吉信氏

申し込み・お問合せ (一財) 3.11伝承ロード推進機構 お申し込みページはこちら

〒980-4014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-26 コンサートビル3F
TEL: 022-333-4261 月～金 9:00～17:30 (祝日を除く)
https://www.311devshoroad.org/

主催：一般財団法人 3.11伝承ロード推進機構
協賛：気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島町、震災伝承ネットワーク協議会、国土交通省東北地方整備局、宮城県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、高松市、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

【気仙沼市開催】

3.11 DEV'SHO ROAD

三陸の新しい魅力

10月2日 2024年 水

参加無料 定員100名 13:30～15:30(開場13:00)

当機構では、三陸沿岸道路や震災伝承施設を活用し、新たな交流人口を呼び込む取り組みを進めています。このフォーラムでは、これまで実施したモニターツアーや検討会での意見をもとに、三陸沿岸地域の魅力を皆さんと一緒に考えます。ぜひご参加ください。

基調講演

未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割

講師 奥村 誠氏 東北大学災害科学国際研究所 教授

京都市出身。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同大学助手、講師、広島大学助教授を経て、2006年より東北大学教授。地域計画・土木計画を専門とし、ブラジル、シベリア、ポリビアでのプロジェクトにも関わる。博士(工学)。

女性が語る三陸の新しい魅力

～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～

パネリスト

庄子 真岐氏 川崎 杏樹氏 岩崎 昭子氏 根尾 奈那氏 後藤 博美氏 原田 吉信氏

申し込み・お問合せ (一財) 3.11伝承ロード推進機構 お申し込みページはこちら

〒980-4014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-26 コンサートビル3F
TEL: 022-333-4261 月～金 9:00～17:30 (祝日を除く)
https://www.311devshoroad.org/

主催：一般財団法人 3.11伝承ロード推進機構
協賛：釜石市、大田町、大船渡市、陸奥国史跡、震災伝承ネットワーク協議会、国土交通省東北地方整備局、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、高松市、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

【釜石市開催】

1) 参加者数

・ 気仙沼会場	一般	60名	
	メディア	河北新報、建設新聞、建設通信、建設工業	4社
・ 釜石会場	一般	75名	
	メディア	釜石新聞、岩手日報、朝日新聞、読売新聞	4社

2) 基調講演（奥村氏講演骨子）

- ・ 災害伝承が災害対策に役立つためには、人々が自分ごととして捉える必要があると強調。
- ・ 三陸沿岸道路の整備により、移動時間が短縮されたものの、それだけでは観光客の増加には繋がらないと指摘。
- ・ 地域の魅力を高め、来訪者との交流を深めることが重要性を強調し、道路の時間信頼性が重要な役割を果たす。



【奥村氏講演状況】

3-2-3. フォーラムの開催結果

3) パネルディスカッション（議論の概要）



【気仙沼会場パネルディスカッション状況】

（１）気仙沼会場

未来志向の地域観光としての震災伝承施設の役割を考慮すると、2次交通の整備や観光タクシーの造成といったアクセスの向上は必須で、地域の魅力再発見の必要性をベースに、震災学習と地域の魅力を組み合わせた商品開発の可能性を信じる。また、伝承館のリピーターの多さと質の高さから人との繋がりの重要性や新たな人のネットワーク構築による震災伝承施設の利活用が必要となる。



【釜石会場パネルディスカッション状況】

（２）釜石会場

議論を通じて、三陸地域の観光振興には防災学習と観光の融合としての震災伝承施設の活用と、三陸沿岸道路による地域間連携の強化を図り、インバウンド対応の充実を共通の認識を持って観光の推進を図る。また、単なる施設整備だけでなく、地域全体で魅力を創出し、持続可能な観光地域づくりを進めていく必要性を共有。

3-3-1. 目的

東日本大震災から13年が経ち、三陸沿岸道路が全通し、新たな復興のステップを迎えている。新設した震災伝承施設、復興インフラ、そして復興の街並みは、被災者の様々な思いが込められた施設であり、貴重な地域の資源であり、財産でもある。

一方、三陸沿岸道路による震災伝承施設のネットワーク化は、「3.11伝承ロード」として伝承や防災だけに止まらず、人と人、地域と地域を繋ぎ、地域の結束力を高める大きなコンテンツである。

そのため、震災後の三陸沿岸地域の魅力や活力を映像化し、広く発信することにより、三陸地域への誘客を図り、復興道路の利用促進や震災伝承施設への集客に貢献するものである。

3-3-2. コンセプト

三陸沿岸道路を活用し、「3.11伝承ロード」にある震災伝承施設を含め、新たな三陸沿岸地域の魅力を、その場所の人を介して三陸の魅力や活力、見どころを紹介するものアピールする。

3-3-3. ポイント

人を介して三陸の魅力や活力、見どころを紹介



三陸沿岸道路を使い、震災伝承施設の魅力を伝えながら、そのエリアの周辺観光(グルメも含め)紹介していく、観光のきっかけづくり



人を介して伝える
・震災伝承施設等の語り部やガイドとのコミュニケーション
・タレントによる旅人の気持ちを表現



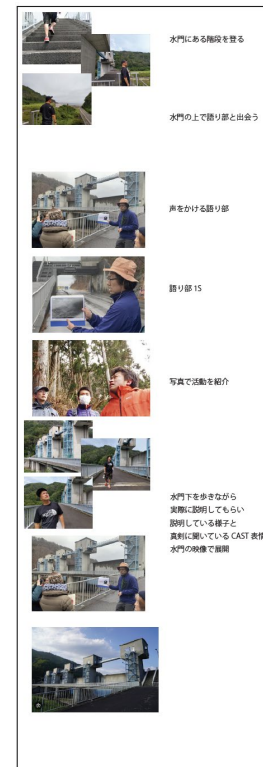
地元愛で結ぶ復興ツーリズム
タイトル：「震災伝承施設を巡る 三陸縦断旅」

3-3. 三陸沿岸地域紹介映像制作

3-3-4. 映像のあらすじ

旅好き女子が三陸沿岸道を利用して旅をする 旅先で出会う人や施設、体験などを通じて、旅を楽しみながらも震災の伝承について考える。旅を終えた時にCASTは何を思うのか。現在の三陸の観光とCASTの率直な感想で映像が展開される

3-3-5.絵コンテ-1



3-3. 三陸沿岸地域紹介映像制作

3-3-5. 絵コンテ-2

宮城県復興スタジアムの映像を数カット

ベンチでスタジアムを見ている所に川崎さんの声をかける

二人が会話中での川崎さんの表情

川崎さんの紹介の中でいのちをつなぐ未来館を見せる

スタジアムで二人で話すスタジアムがどういった場所なのか聞く説明の中でスタジアムを斜視的に見えるドローン

二人で歩いてスタジアムから出る様子

マップで当時逃げた経路・距離を見せる

避難当時の写真2枚程度

画面下に現在地表示

歩いてきてやまざきサービスエリア付近で説明を聞く

現在の見晴らしと当時の写真をフェード

恋の峠手前を歩きながら

恋の峠が見えてきて

展開が代わり

車に乗って出発、高速の看板の映像から車を降りて道の駅に入る店内に並ぶ商品を眺めて食事をするまでをBGMにのせて流れるように見せる

マップで説明

一本松と景色を壮大に

一本松の映像見上げる CAST の表情

気仙中学校外観

気仙中学校ドローン

雑感と津波の高さの看板

3-3-5. 絵コンテ-3



ガイドに連れられて
中に入っていく

(建物の被害の話を
実際にガイドを受け話を聞く
話を聞きながら
印象的だったものを
抜粋して映像で使用

(当時の避難の状況の話を
実際にガイドを受け話を聞く
話を聞きながら
印象的だったものを
抜粋して映像で使用



気仙沼大橋を走る様子を
ドローンで撮影

マップで説明

ブルーインパルス

自転車で行く CAST

ドローンで自転車道につけ

奥松島イートプラザ

自転車に乗る表情
遊歩道
緑路の名残りなど

看板の前で立ち止まる

看板を見せる



この地点の雰囲気

看板の写真や
当時の写真があれば

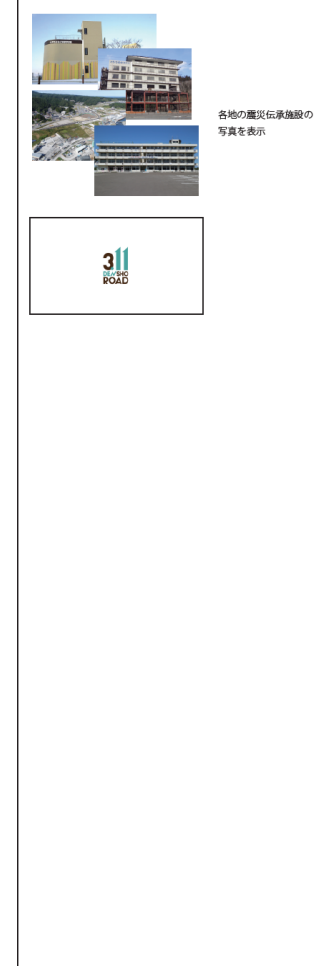
自転車で走る CAST

旧野蒜駅の様子

震災復興伝承館を
CAST が見学している
映像で構成

奇跡の丘

これまでの映像を
繰り交ぜながら展開します



各地の震災伝承施設の
写真を表示

311
DEWASHO
ROAD

3-3-6. 制作映像の活用方策

・ CDの提供先

- 三陸沿線自治体
- 三陸沿線の観光協会等
- 三陸沿線の「道の駅」
- 三陸沿岸道路周辺の震災伝承施設
- NPO法人みちのくトレイルクラブ
- いわて三陸ジオパーク推進協議会
- 三陸復興国立公園内ビジターセンター
- 国や県の出先事務所 他

・ 映像としての活用

- SNS（YouTube等）による発信
- 当機構ウェブサイトの掲載、
- 3.11伝承ロード研修会での活用
- イベント時における放映 他

・ その他

- 申込者への自由提供（ウェブサイトによる希望者）

4. New Desutination プランの総括

4-1. 事業の振り返り

事業採択を受け、熱量をもって望んだ。効率的な事業展開を図るため、調査内容の検討の場として、宮城・岩手両県の観光事業者、旅行業者、マスコミ、学識者で構成する三陸沿岸道路エリア活性化検討会を立ち上げた。この検討会においては事業の顕在化を図るため公開を原則として5回開催した。

初年度は現況調査、自治体ヒアリング、二年目にWebアンケート、モデルルートの設定、モニターツアーの実施と振り返ると調査のメインとなった。三年目は情報発信に限定し、地域向けのフォーラム開催、三陸地域紹介動画作成を行った。

4-2. 事業の総括

事業のエリアは広大であり、エリアを繋ぐ三陸沿岸道路（仙台～八戸）は359kmと長く、沿線も仙台平野、リアス式海岸、北リアスの絶壁の海岸段丘と地形が大きく異なっているが、同一視した理由は、震災前から観光産業は弱く、鉱山系産業や漁業が中心の産業構造となっていたことから、震災後の復興した地域に新たな産業の育成の観点から観光の成長を目指した。何故なら震災後に整備された施設は、復興インフラと震災伝承施設に限られ、それらを活用した産業創出の観点から、既存の観光コンテンツとの融合によって新たな観光の提案を考えた。

既存の観光コンテンツは広範に分布するジオ資源であり、アミューズ系施設は全くないことから、震災伝承施設との親和性も高く、三陸沿岸道路による利便性の確保の観点から十分に連携が可能であり、三陸地域の新たな観光プログラムを提案することができたと考えている。

まだ時が浅く認知度も低いが、災害が多頻度激甚化する中で、そのポテンシャルは徐々に高まり、三陸沿岸道路の利用促進による大化けの可能性すら可能である。

最後に、事業の展開の中で震災伝承施設を顕在化とともにネットワーク化の推進に努めたが、我々の認識不足もあり、ツアールートの提案ができたが当初予定していた観光事業者の領域であるモデルルートの整理ができずに、震災伝承施設における観光コンテンツ化の提案にとどまった。

3.11 伝承ロード推進機構

三陸沿岸道活用の震災の教訓を体感する旅

震災伝承施設を巡る **三陸縦断旅**

2024.08.25 四稿

2024.07.11 三稿

2024.07.05 二稿

2024.06.25 初稿

CAST 候補



大塩 由起

Yuki Ohshio



サイズ	157cm
出身	徳島県
略歴	<p>武庫川女子大学 日本語日本文学科 卒業</p> <p>関西アナウンススクール 第47期サンテレビガールズ 第67回今宮戎福娘</p> <p>元 テレビユー山形</p>
趣味・特技	<p>料理 ゴルフ 書道 そろばん ジャグリング 魚の三枚おろし</p>
資格・免許	<p>秘書技能検定準一級 普通自動車第一種免許 いぬ検定 図書館司書 MOS Excel Word 2013</p>

フリーアナウンサー

・サンテレビ（神戸）

・テレビユー山形

※活動拠点 東京

フォロワー

Instagram 2.3 万人

TikTiok 3 万人



撮影の内容を宣伝していただき

動画の再生回数に繋げる

あらすじ

旅好き女子が三陸沿岸道を利用して旅をする

旅先で出会う人や施設、体験などを通じて

旅を楽しみながらも震災の伝承について考える

旅を終えた時に CAST は何を思うのか

現在の三陸の観光と CAST の率直な感想で

映像が展開される

オープニング

穏やかなBGM

～少しBGM聞かせて

CAST（ひとり語りのイメージ）

「普段私は東京で活動しているのですが、

今日はゆったり、東北の三陸にきています

高速道路が続いて、とても快適です！」など

（少し回しっぱなしにして素のコメントいただきます）

NA/2021年に全線開通した

三陸沿岸道で巡る三陸地方の旅

NA/旅に出るのは、

「(旅の中で印象的なコメント・シーン)」

テロップ

大塩 由起

徳島県出身 東京在住

元テレビユー山形アナウンサー

CAST（ひとり語りのイメージ）

「(旅に対しての意気込み)」

※旅好き・運転好き・伝承施設・三陸縦断などの要素を入れて

NA/さあ、車に揺られて、三陸満喫しましょう。

（上コメントの内容によってこのNAはありなし判断）

タイトルテロップ°

震災伝承施設を巡る「三陸縦断旅」



絶景の中の三陸沿岸道を走る
車から旅が始まる（ドローン）



運転している様子



景色が開かれる
車窓の映像挟みながら



開通時に撮影した
道路上を飛行したドローンで
旅の説明



運転している様子



映像内で印象的な部分を抜粋



ハンドルを握りながら
旅の意気込みを話す



ドローンで壮大な景色の中
旅が始まるタイトル

普代村



マップで説明
無料区間を伝え、
見ている人に気軽に来ていただく



インターチェンジの看板を発見



運転している様子に
出演者の名前テロップ表示



青空と青い海を見せて
壮大に紹介



歩いて向かう背中越しに
水門が見えてくる



水門をイメージ的に撮影



水門の大きさを体を使って表現
CAST 全身から
ドローンが離れて行き
水門全体が見える



上空から見える普代水門



海から普代水門へ近づいていく

奇跡の水門

NA/ 三陸沿岸道は全長 359km の
三陸を縦断する高速道路。
なんとそのうち、
330km は無料区間となっています

CAST
「普代村インターチェンジの看板が見えますね。」

CAST
「ここで降りてみますか！」

NA/ 普代村は壮大な海の景色を楽しむことから
「青の国」とも呼ばれ、
海の幸なども楽しめる観光スポットです。

CAST
「うわー！大きい！何 m あるんだろ！（自由に）」

NA/ 大塩さんが訪れたのは、
普代村の河口にある普代水門。

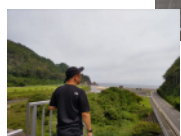
CAST
「門と並ぶとこんな！私豆粒みたい！」

NA/1984 年に建設された、普代水門。
実はこの門、
村では『奇跡の水門』と呼ばれています。

普代村



水門にある階段を登る



水門の上で語り部と出会う



声をかける語り部



語り部 1S



写真で活動を紹介



水門下を歩きながら
実際に説明してもらい
説明している様子と
真剣に聞いている CAST 表情
水門の映像で展開



CAST

「わー、海が近くて、眺めいいですね」

語り部

「普代水門は多くの人命を救ったんですよ」

CAST

「おお！突然！びっくりした！」

「どなたですか？」

語り部

「普代水門の語り部をしています。△△です。」

NA/△△さんは、久慈広域観光協議会に所属し、
「北いわて・学びのプログラム」と題して
久慈市や普代村などで語り部の活動をしています。

語り部

「当時村長だった和村幸得は、
1933 年の昭和三陸津波を経験から、
1984 年この水門を設置しました。
震災の時は 20m の津波が来たんですが、
高さ 15.5m のこの水門が津波を足止めしてくれて
被害は行方不明者 1 名と抑えることができました。」

CAST

「(CAST 感想)」
「この巨大な水門が守ってくれたからこそ
こうやって綺麗な景色と
普代村の魅力を楽しめることがわかりました」

釜石市



マップで説明



車窓から見える釜石の街並み



釜石の全景が見えるドローンが
俯瞰からの映像



スタジアム周辺を歩く



看板を見る CAST に
復興看板が見える



復興看板が見える



各地の復興看板の写真



歩きながらスタジアムを発見
釜石鵜住居復興スタジアムを
見て回る

NA/ 普代村を後にした大塩さんは、
三陸沿岸道路を南下して次の目的地に向かいます。

(途中綺麗な景色などがあればコメントありでも OK)

NA/ 到着したのは、
普代村からおよそ 1 時間の釜石市。

NA/ 釜石市は古くは漁港として栄え、
明治以降は
近代製鉄発祥の地としても有名な街です。

NA/ 釜石の町を散策中、
あるものを発見です。

CAST

「子どもたちの命を救った道？」

NA/ 見つけたのは、鵜住居運動公園に設置されている
「震災伝承看板」。

NA/ この「震災伝承看板」は
震災の被害を伝えるため、
津波の被害を受けた各地に設置されています。

CAST

「立派なスタジアムですね。
試合の時は盛り上がるんだろうな～」

釜石市



釜石鵜住居復興スタジアムの映像を数カット



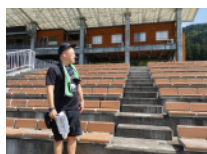
ベンチでスタジアムを見ている所に
川崎さんが声をかける



二人が出会う中での
川崎さんの表情



川崎さんの紹介の中で
いのちをつなぐ未来館を
見せる



スタジアムで二人で話す
スタジアムが
どういった場所なのか聞く
説明の中で
スタジアムを俯瞰的に見える
ドローン



二人で歩いて
スタジアムから出る様子

NA/ 釜石鵜住居復興スタジアムは

震災後の 2018 年に完成したスタジアムです。
2019 年にはアジアで初めて開催された
ラグビーワールドカップ
日本大会の会場として利用され、
釜石の町を盛り上げました。

NA/ スタジアムを見学していると

地元の方に出会いました。

NA/ 釜石市に住む「川崎杏樹」さん。

釜石市の防災学習施設、
「いのちをつなぐ未来館」で働いています。

川崎さん

「この場所は、元々、
釜石東中学校と鵜住居小学校があった場所なんです。
震災当時、私は釜石東中学校に通っていて・・・。」

CAST

「(お話を聞いてリアクションあって)」

川崎さん

「私は、避難した中のひとりでした。
小学生と手を繋いで逃げたことを
今でも覚えています。」

NA/ 川崎さん、当時逃げてきた道を
案内してくれました。

釜石市



マップで当時逃げた
経路・距離を見せる



避難当時の写真 2 枚程度



画面下に現在地表示

歩いてきて
やまざきデイサービス付近で
説明を聞く



現在の見晴らしと
当時の写真をフェード



恋の峠手前を歩きながら



恋の峠が見えてきて

NA/ 当時避難で歩いた距離はおよそ 1.6km
時間にしておよそ 40 分～50 分の出来事でした。

NA/ 鵜住居では、震災前から小中学校合同で
避難訓練が行われており、
当時カワサキさんも小学生と
手を繋いで避難したそうです。

川崎さん

「ここは避難場所になっている所から
300m 進んできた所なんです、
避難場所に逃げた時、もっと上に逃げた方が良くと
周辺住民と先生との間で話になってここまで来ました。
この辺りに来た時に地響きになって
振り向くと津波に飲み込まれる
鵜住居の街が見えました。」
(ご自分のお言葉で大丈夫です)

川崎さん

「もうすぐ、避難した恋の峠です」

CAST

「(結構登るの大変なので移動してきてのコメント)」

川崎さん

「ここが避難した恋の峠です。
(ここに来てのお話などあって)」

CAST

「(お話を聞いて歩いてみての感想)」

川崎さん

「震災から 13 年経って今思うこと
(ロケハン時話されていた
今になっても変わらないこと)」

釜石市

場面が変わるBGM♪

NA/ お昼時、釜石市内でランチに向かいます。

♪BGM にのせて PV のように展開

CAST

「(ラーメンを食べての感想)」

※「極細の縮れ麺」と「琥珀色に透き通った醤油味の淡麗スープ」が特徴
濃いめの味

鉄工の作業で大量の汗をかいた坑夫が塩分と水分とお腹を
短時間で満たす食事だった

5

展開が代わり



車に乗って出発、

高速の看板の映像から

車を降りて

道の駅に入る

店内に並ぶ商品を
眺めて

食事をするまでを

BGM にのせて

流れるように見せる



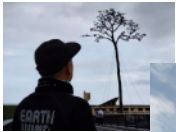
陸前高田市



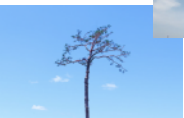
マップで説明



一本松と景色を壮大に



一本松の映像
見上げる CAST の表情



気仙中学校外観



気仙中学校ドローン



雑感と
津波の高さの看板

NA/ お腹も満たされ、続いては陸前高田市へ。

(のどかな現場ノイズ)

CAST

「陸前高田市のシンボルにもなっている

奇跡の一本松ですね」

「7万本の中で1本だけ残ったという。」

(のどかな現場ノイズ)

NA/ 「奇跡の一本松」の近くにあるのが
「旧気仙中学校」。

NA/ 旧気仙中学校は海沿いにある学校のため
震災時は津波の影響を大きく受けました。

CAST

「(外観を見ての感想をお願いします)

三階まで到達したんですね。」

※当時の物がそのまま残っていることで感じる事があれば○

陸前高田市



ガイドに連れられて
中に入っていく



(建物の被害の話)
実際にガイドを受け話を聞く
話を聞きながら
印象的だったものを
抜粋して映像で使用



(当時の避難の状況の話)
実際にガイドを受け話を聞く
話を聞きながら
印象的だったものを
抜粋して映像で使用



NA/ 現在は、パークガイドの案内があれば
中の見学も可能です。

ガイド

「ここでは3年生の教室だったところなのですが、
上の方見ていただくと青いものが見えると思います。
あれは教室で使われていた机の椅子です。
その隣には、当時の生徒さんが使っていた
靴が引っ掛かっているのが見えると思います。
これを見ると当時の津波の威力だとか高さを
物語っていると思います。」

ガイド

「震災の当時は、先生方が素早く判断をして
生徒・教職員全員避難することができました。
避難した場所から学校の隣を流れる
気仙川が見えるんですが、
気仙川の川底が見えるくらいに波が引いていたので
確実に津波が来ると思ったそうです。」

CAST

「(案内を受けての感想をお願いします)」

CAST

「ガイドのお仕事を通じて
伝えたいことはありますか？」

ガイド

「(ガイド様の思いをお聞きします。)」

東松島市



気仙沼大橋を走る様子を
ドローンで撮影

マップで説明



ブルーインパルス



自転車で走る CAST



ドローンで自転車追っかけ



奥松島イートプラザ



自転車に乗る表情
遊歩道
線路の名残りなど



看板の前で立ち止まる



看板を見せる

CAST

「すごーい！立派な橋ですねー！」

NA/ 旅の最後に向かうのは、

鳴瀬奥松島 IC を降りた東松島市。

(ロケ中見かけたらコメントあっても OK)

NA/ 航空自衛隊松島基地があることで知られ、

ブルーインパルスのアクロバット飛行が
日常的に見ることができます。

CAST

「おー！気持ちー！！」

NA/ 大塩さんはレンタル自転車を利用して
サイクリングへ。

ちなみに自転車は

野蒜駅隣の奥松島イートプラザで
借りることができます。

CAST

「今私が走っている道路は

元々は電車が走ってる線路だったようなんですよね
走っていると線路だった形跡が残っていますね」

CAST

「お、看板が見えてきましたよ。」

CAST

「**運転中の列車が津波による被害を免れた地点**」

東松島市



この地点の雰囲気



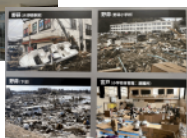
看板の写真や
当時の写真があれば



自転車で走る CAST



旧野蒜駅の様子



震災復興伝承館を
CAST が見学している
映像で構成



奇跡の丘



これまでの映像を
織り交ぜながら展開します

NA/ ここは震災時、
石巻行きの電車が緊急停止した場所。

NA/ 当時の JR のマニュアルでは、
近くの野蒜駅への避難が記されていましたが、
乗車していた消防団の助言でとどまり、
津波から逃れることができました。

♪ BGM にのせて PV のように展開

CAST
「着きました。旧野蒜駅。
柱とかが傾いてますね。」

NA/ 当時の野蒜駅は津波が押し寄せ、
大きな被害を受けました。

電車が緊急停止した場所は
多くの乗客を救ったことから
奇跡の丘と呼ばれています。

CAST
「(これまで回ってきての感想を聞きます)」

※近年の自然災害被害が増えている中で、
伝承していくことの重要性的な部分を絡められると○

まとめ



各地の震災伝承施設の
写真を表示



NA/ 震災伝承施設は

青森・岩手・宮城・福島の四県にあります。

今回は4ヶ所登場しましたが、

全部で〇ヶ所あるので、

ぜひ訪れてみてください。

備考

- 各ヶ所撮れ高によって
コメントなど追加するかと思います
- 現場の状況によって
撮影の形を変更する可能性があります
- 現地の人にお話を聞けそうな場面が生まれたら
積極的に聞きます

三陸の新しい魅力

震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について

2024年
9月11日 水参加
無料定員
100名

13:30～15:30 (開場13:00)

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
体験交流ホール(宮城県気仙沼市浜路上瀬向9-1)

当機構では、三陸沿岸道路や震災伝承施設を活用し、新たな交流人口を呼び込む取り組みを進めています。このフォーラムでは、これまで実施したモニターツアーや検討会での意見をもとに、三陸沿岸地域の魅力を皆さんと一緒に考えます。ぜひご参加ください。

基調講演

未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割



講師 奥村 誠 氏 東北大学災害科学国際研究所 教授

京都市出身。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同大学助手、講師、広島大学助教授を経て、2006年より東北大学教授。地域計画・土木計画を専門とし、ブラジル、シベリア、ボリビアでのプロジェクトにも関わる。博士(工学)。

女性が語る三陸の新しい魅力

～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～

パネルディスカッション

コーディネーター
石巻専修大学 教授パネリスト
気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館パネリスト
南三陸ホテル観洋 女将パネリスト
近畿日本ツーリスト(株) 仙台支店パネリスト
(株)日本旅行東北 仙台支店アドバイザー
(一財)3.11伝承ロード 推進機構

庄子 真岐 氏

福岡 麻子 氏

阿部 憲子 氏

豊島 恵美子 氏

橋 えりか 氏

原田 吉信 氏

申し込み・お問合せ (一財) 3.11伝承ロード推進機構

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-26 コンヤスビル3F
TEL: 022-393-4261 月～金 9:00～17:30 (祝日を除く)

主催: 一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構

後援: 気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島市、震災伝承ネットワーク協議会、国土交通省東北地方整備局、宮城県、岩手県

(一財) 国土計画協会が主催する「高速道路利用・観光・地域連携促進プラン」の支援金を活用しています

お申し込みページはこちら ▶

お申し込みは右側のQRコード、または
3.11伝承ロード推進機構ウェブサイトからどうぞ
<https://www.311densho.or.jp/>

3.11伝承ロード推進機構



教訓が、いのちを救う。

3.11
DENSHO
ROAD

地域活性化フォーラム in 釜石

三陸の新しい魅力

震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について

2024年
10月2日 水

参加
無料

定員
100名

13:30～15:30 (開場13:00)

釜石市民ホール TETTO ホールB
(岩手県釜石市大町1-1-9)

当機構では、三陸沿岸道路や震災伝承施設を活用し、新たな交流人口を呼び込む取り組みを進めています。このフォーラムでは、これまで実施したモニターツアーや検討会での意見をもとに、三陸沿岸地域の魅力を皆さんと一緒に考えます。ぜひご参加ください。

基調講演

未来に役立つ災害伝承のための三陸沿岸道路の役割



講師 奥村 誠 氏 東北大学災害科学国際研究所 教授

京都市出身。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。同大学助手、講師、広島大学助教授を経て、2006年より東北大学教授。地域計画・土木計画を専門とし、ブラジル、シベリア、ボリビアでのプロジェクトにも関わる。博士（工学）。

女性が語る三陸の新しい魅力

～震災伝承施設と三陸沿岸道路の魅力と役割について～

パネルディスカッション



コーディネーター
石巻専修大学 教授

庄子 真岐 氏



パネリスト
いのちをつなぐ未来館

川崎 杏樹 氏



パネリスト
宝来館

岩崎 昭子 氏



パネリスト
日本航空（株）東北支社

根尾 奈那 氏



パネリスト
(株)日本旅行東北
インバウンド・MICE営業部

後藤 博美 氏



アドバイザー
(一財)3.11伝承ロード
推進機構

原田 吉信 氏

申し込み・お問合せ (一財) 3.11伝承ロード推進機構

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-2-26 コンヤスビル3F
TEL: 022-393-4261 月～金 9:00～17:30 (祝日を除く)

主催: 一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構

後援: 釜石市、大槌町、大船渡市、陸前高田市、震災伝承ネットワーク協議会、国土交通省東北地方整備局、岩手県、宮城県

(一財) 国土計画協会が主催する「高速道路利用・観光・地域連携促進プラン」の支援金を活用しています

お申し込みページはこちら ▶

お申し込みは右側のQRコード、または
3.11伝承ロード推進機構ウェブサイトからどうぞ
<https://www.311densho.or.jp/>

3.11伝承ロード推進機構

Q

